

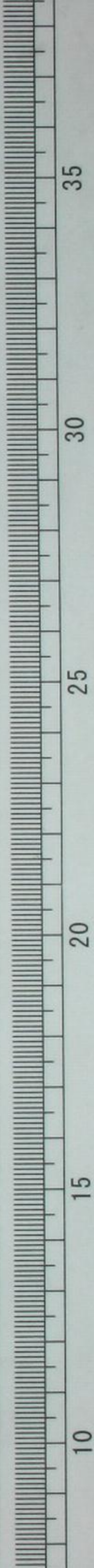
再

花洛名勝圖會

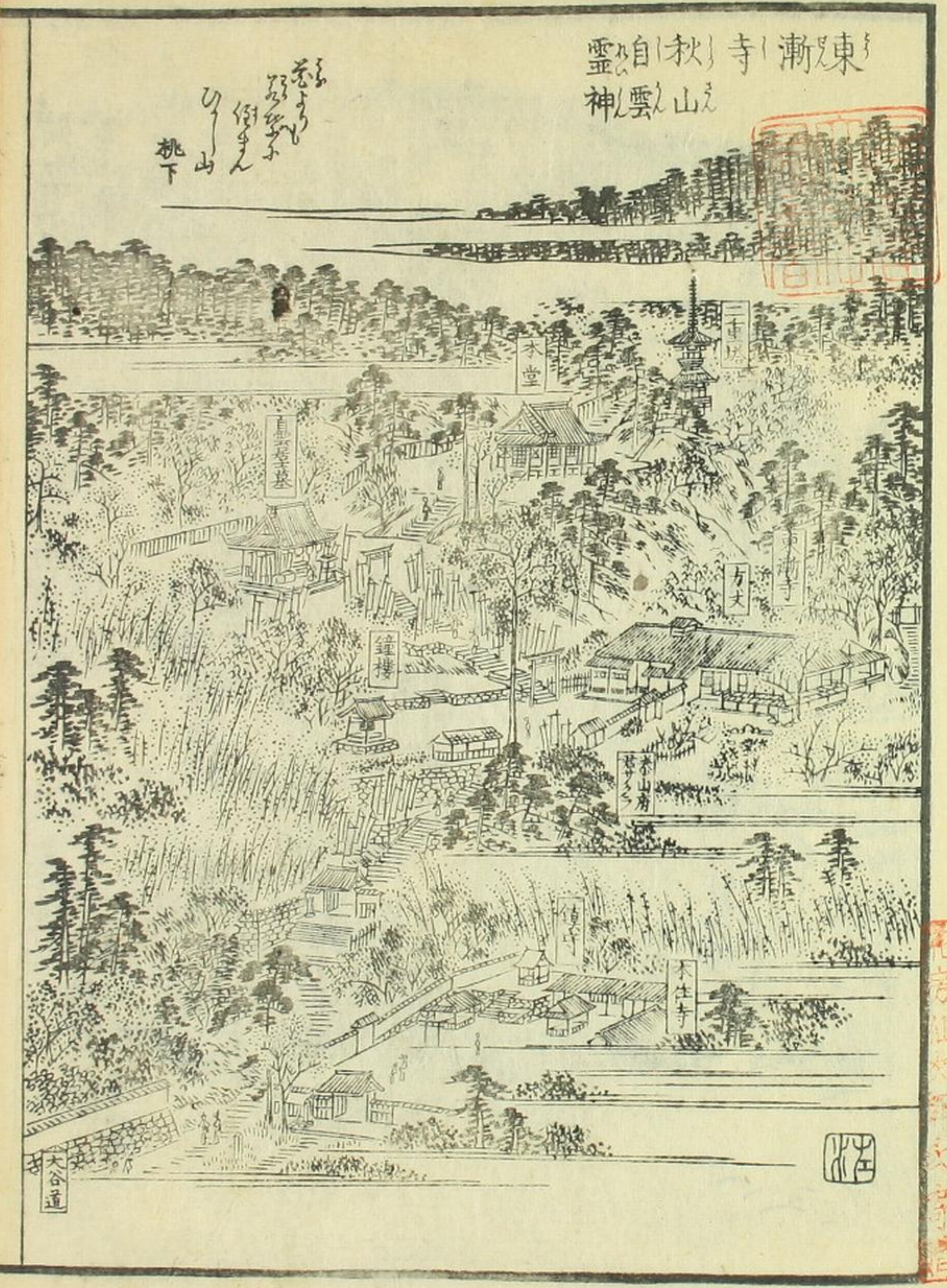
東山之部

六

イ13  
528  
6







東漸寺秋白靈  
山雲神

桃下  
山  
御堂  
石  
石

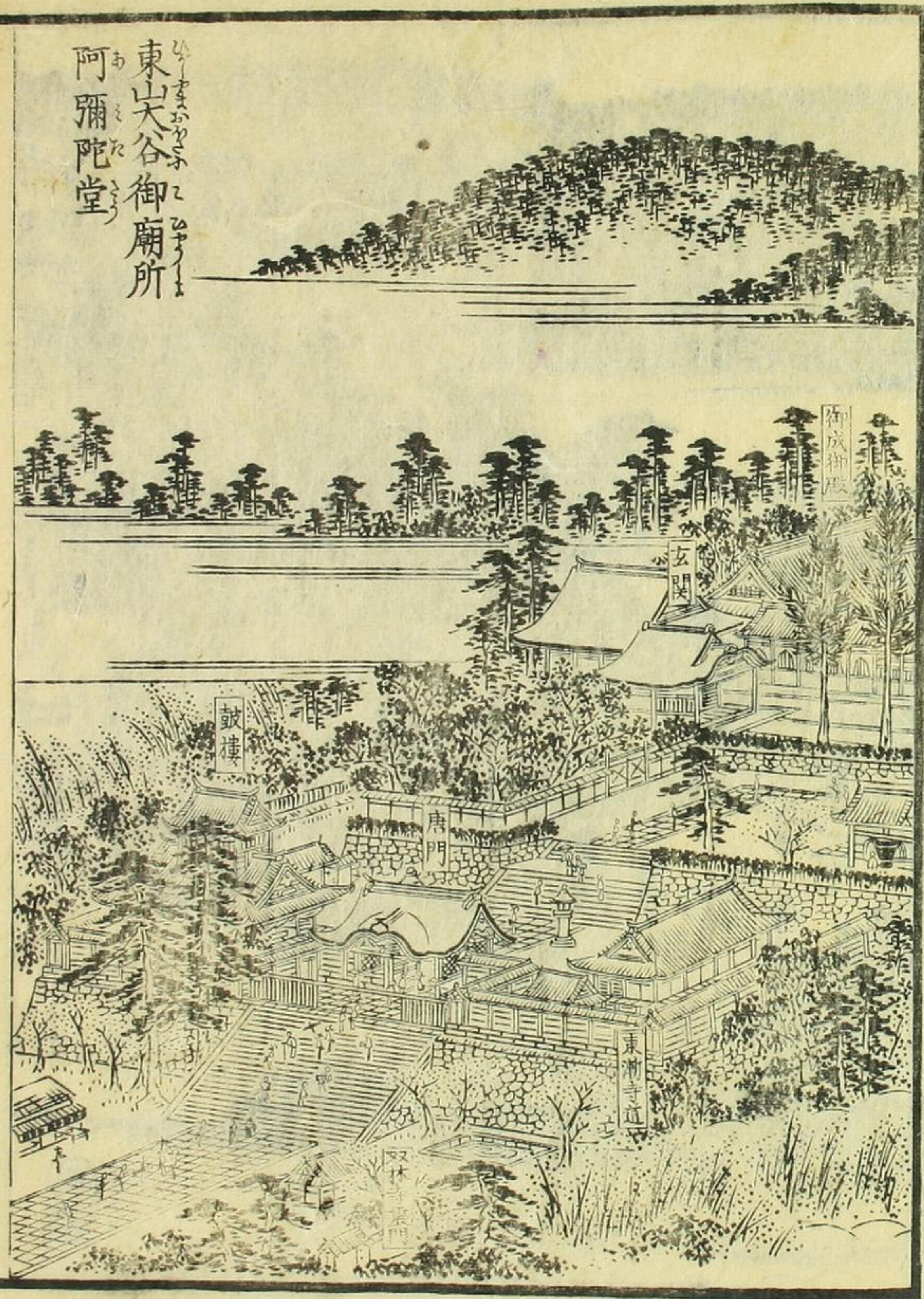
印

13  
528  
6

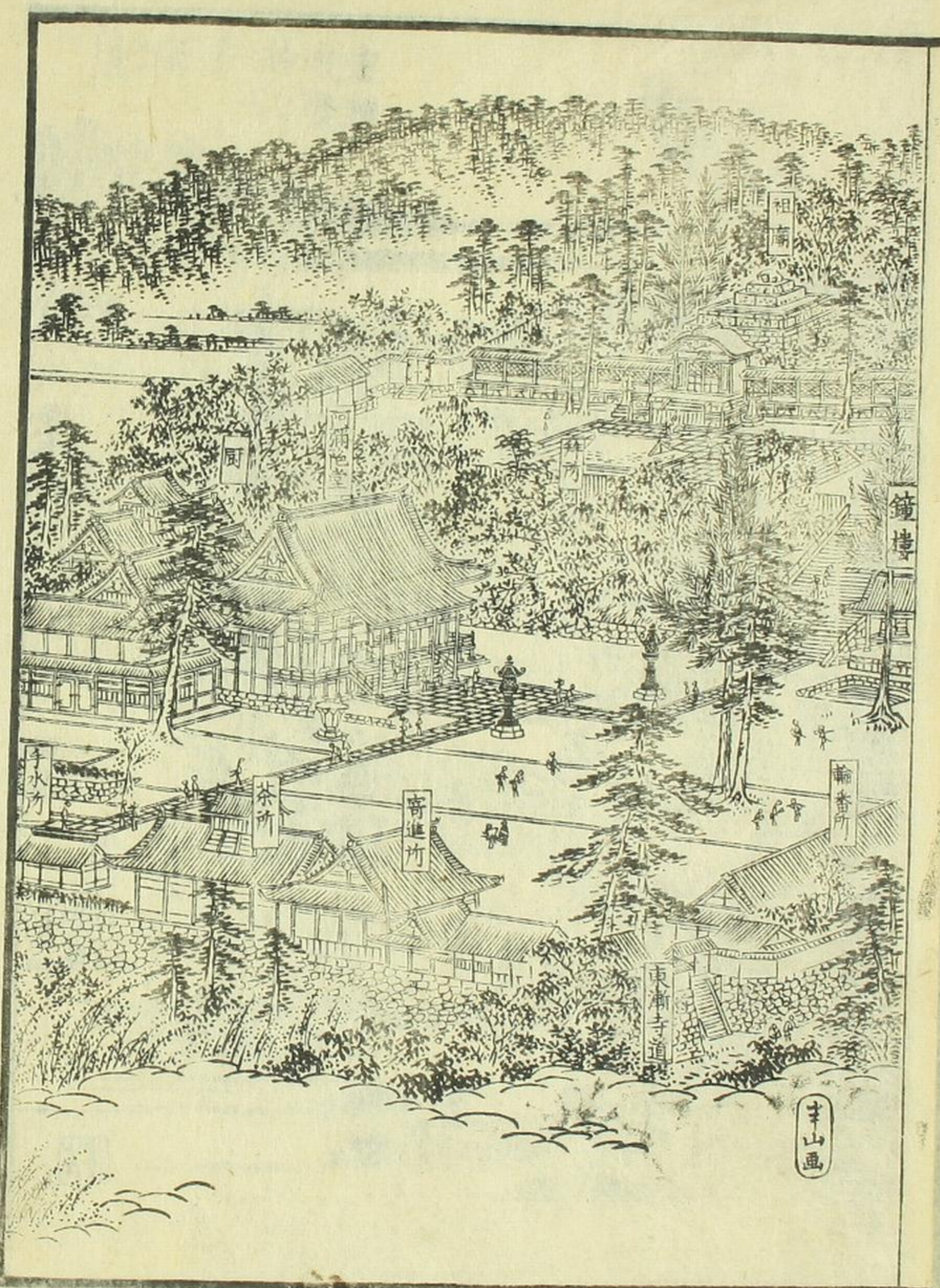
大正十一年二月



東山尖谷御廟所  
阿彌陀堂



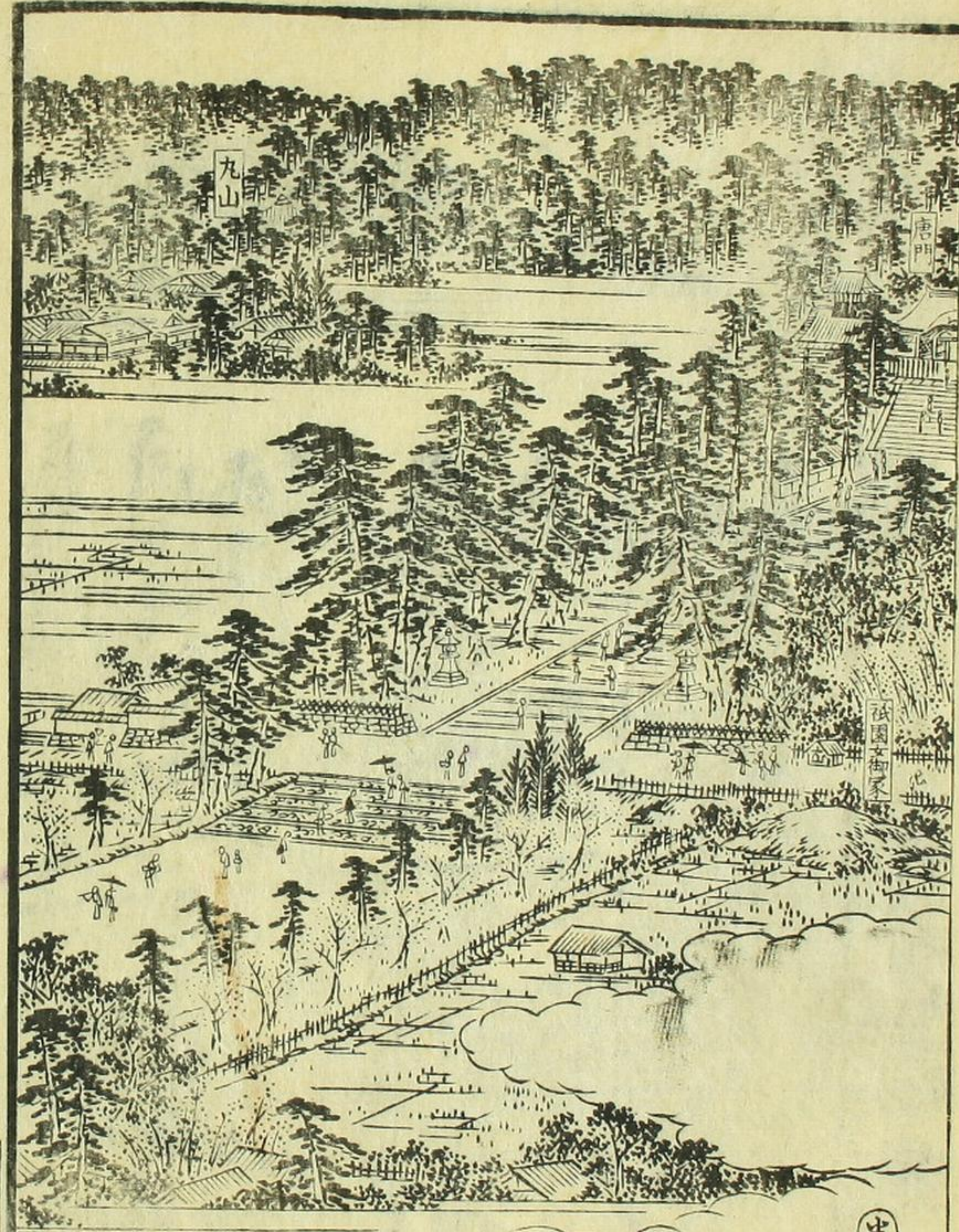
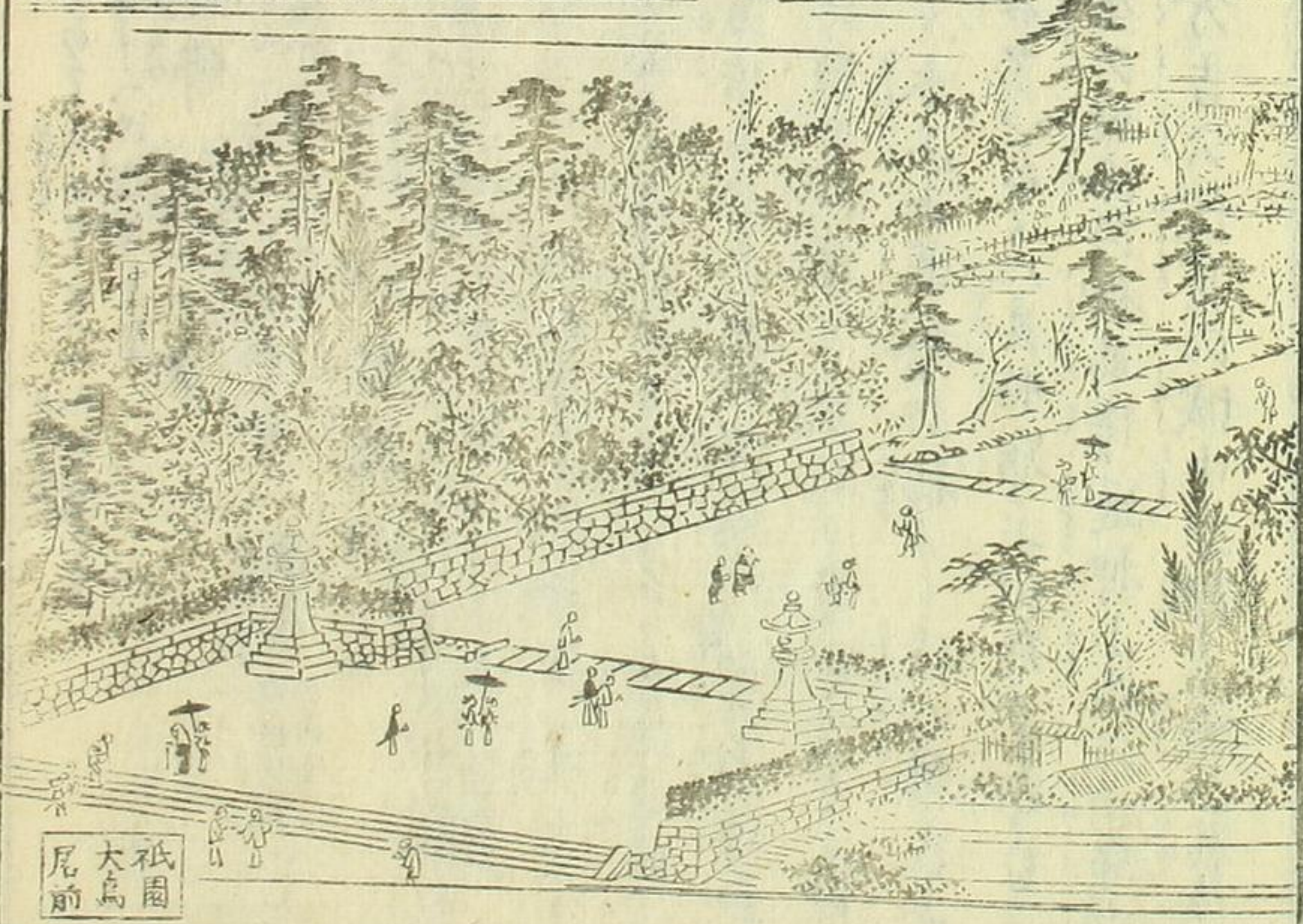
東山三三六



本山画



其二  
門前松林  
道真葛原



東山三ノ三十七

半山画



東山大谷御廟所 長樂寺の南ふみ大谷をたつた知恩院より

本堂 南向 本尊 阿彌陀佛 阿彌陀佛 二尺余

親鸞聖人廟 本堂東山上ふみ 廟上ふみ虎石と置く 殿舎 本堂の北

大厨所 厨所の南ふみ 鐘樓 本堂の南東 鼓樓 唐門の北

茶所 厨所の南ふみ 唐門 西向 松林 赤詣道 下河原小續く大石燈籠二基並ぶ

當山 東本願寺の祖廟 元禄年中 小造 菅有 所を

本尊 彌陀佛の尊像 其始り 東武の士片山某 念持尊なり

或時 本尊 片山氏の夢 小靈告あり 我洛陽の 東本願寺小

移り る 曰 る 門葉の徒亦 同夢を感 ひ 事數度 なり

依 る 其旨趣 を一紙小書 本山小寄附 の稱 片山佛 ふ

また 廟上小置 く 所の虎石 や 其形 席小似 たる 以 り

此石 其初 め 開山 聖人 往生の地 洛の柳馬場 通押小路の南 席石

町 ふ あ ら 然 る 溪 豐太閣 秀吉公 伏見の城中 小移 し 給 ひ 其後

東

漸寺 右大谷の南東の山上ふみ 宗旨 法華宗

本堂 南向 本尊 釋迦牟尼佛

方丈 本堂の南西 鐘堂 本堂の北 鎮守社 日野

秋山 自雲靈神祠 本堂の西ふみ 廿小待神 竹林に 秋山自雲

を祈 る 小効 驗あり け 居 す 一基の墓 塚あり 疾を憂 若 年 愈

ひ く 祈願 し 故 小 堂前後 木綿あり 紹 以 て 造 る 秋山自雲靈神 書

た る 幟 を 立 る 林 の 如 く

深草寶塔寺 在 此所 ふ 聖人の御墓 初 東本

願寺の境内 七條の北 ふ 改葬 なり 今 の 御墓

男 や 廟堂 殿舎 善美 を 盡 せ 當門 徒の輩 御國の 遠

僻 を 厭 ひ 盡 く 此所 ふ 來 り 此靈蹟 小 白骨 を 収 め 其所 も

我家の墓所 や 定め く 偈仰 せ 故 小 日々 小 詣 人 踵 を 龍 と 間 漸

た る 此池 櫻樹 多 彌生 の 頃 ふ 東山 懸覽 の 一佳

境 あり 真現世 の 浄土 や 是 を 以 て



東漸寺二首

雨餘新翠匝，鹿堆寬溜冷。々々落草萊，  
似爲山僧破岑寂。一螢款々度梢來，  
鼓寂鐘沉深樹間。幽雲一朵向門過，  
老龕苔古，火香火閑。教妍々新綠山。

中嶋規

全

泰山府君櫻

方丈の庭ふあを古木の大神の櫻より満開の頃ハ俗仙光寺通  
傳云往昔此地櫻甲中納言成範卿山莊の地あり以一樹の櫻樹其庭中ふあを  
成範卿甚喜と愛玩しあまのり櫻花の春日を過ゆけりふらふ夏  
をこぞと祈すに駿者ふ命し泰山府君の法を修せり花の盛りの久し  
久東山の三十六峯連々や々々春日花樹多き中おも歴然や

此一樹の珠盛了久々々花色また勝またれぬ幽僻

閑雅を好むの文人々々遊び塵外の良を催はも多し

本住寺

東漸寺の西中檀ふあを宗普法華宗本能寺の隱居所なり  
三十番神の小社なり庭際ハ大神の櫻あり  
本住寺の南高基寺の境ふあを成範潭水や々々同寺十境の一あり  
水源ハ高基寺山上より出く下河系ハ流る甚清潔なり早天中酒  
此水をものじり此漢菊花多きなり

東山三三十九

和代を流る古根もあはる流の象

園更

黄菊溪間水漫後流又流

岡崎

信好

金玉山雙林寺

東山大谷門前の南西ふあを無量壽院を移りて雙林寺なり  
寺額四指四石寺中七坊  
今辨八藏なり

本堂

南向 本尊 藥師如來 坐像三 傳教大師作 左右

慈覺大師作の阿彌陀佛を安置す國阿上人九十二才自作

の像をも安置せり

神明社

熊野權現社 共本堂の

西行上人塔

本堂の西の傍ふあを上人以寺中ハ兩居を接樹をあはる  
極く春日の爛漫たるを愛玩し吟味したまふなり

頌

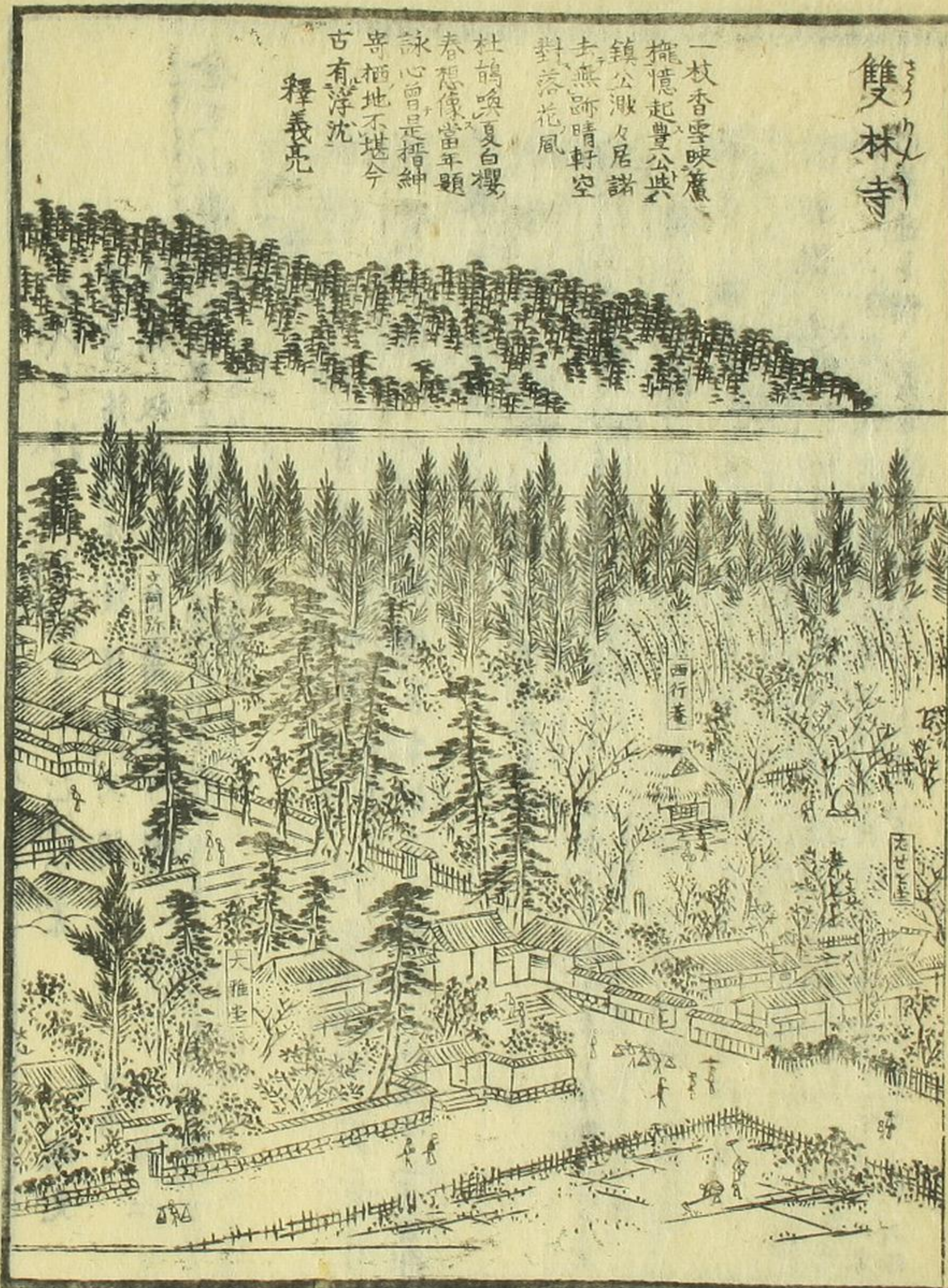
斯の山中入寂し因ふ性昭平判官康賴の法名を判官以地の風景を  
性昭塔 祐日所ふあを性昭平判官康賴の法名を判官以地の風景を  
遊ひ始美の始法勝寺の俊寛僧都丹波火將成経中合玉家の

の暴逆を憎み義兵を揚ぐ企し其事を露頭平氏の

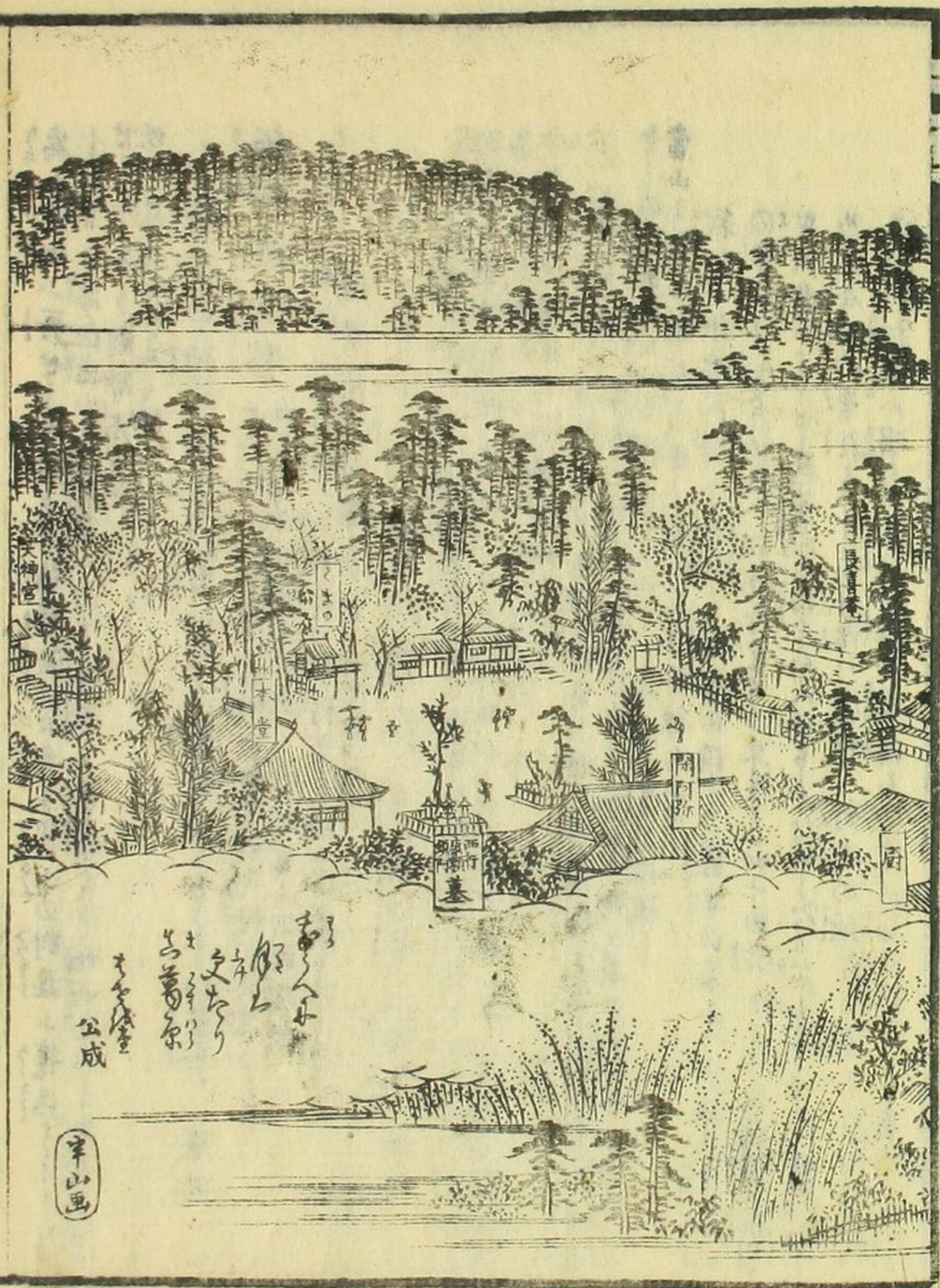


雙林寺

一枝香雪映蒼  
擁憶起豐公典  
鎮公澗夕居諾  
去無跡晴軒空  
對落花風  
杜鵑喚夏白櫻  
春想像當年題  
詠心曾是措紳  
寄栖地不堪今  
古有浮沈  
釋義亮



東山三十四



東山三十四  
寺  
文  
公成

東山







御子御住職ありて雙林寺宮靜仁親王や稱ひ此宮和歌の道に  
 達したまひ作者部類も御名ありはれは慈鎮大和尚及び其  
 師桂林院全玄大僧正も此寺に住たまふ地下の人々ハ西行上人  
 頼阿法師康頼入道性昭も爰小別荘ありて菴を構へて櫻  
 花の歌あり然る中世兵燹小係ありて堂塔止ひて文和の頃  
 國阿上人再興して念佛の一家を立終り國阿派の本山や成御代々  
 天皇御信仰ありて後柏原院宸翰を深き中良開山の縁起を賜ふ  
 當寺第一の寶物なりと豊太閤もまた此寺の花を愛たまひ其縁の  
 住持弥阿弥小花の制札を賜ふ席上小於て前田德善院玄以法印  
 書けり其文云當寺山林竹木不可伐採沙花折取事堅令傳止之畢  
 仍如件 天正十四三月九日民部卿御法印玄以花押双林寺寂たり  
 長喜菴本堂の南小あり當寺の住持の住居なり其庭栽ハ林泉名勝園會小  
 出たれは爰小畧り連半池辺小茶陽花繁茂一上觀やちり今當庵先住謙阿更名ま  
 數百花咲けり其大雅無名小學人丹靑小妙なり今義惠清影小至了家声と  
 月華やつる會り他大雅無名小學人丹靑小妙なり今義惠清影小至了家声と  
 隆さの文化の頃より春秋三月廿三日兩度書院の毎回小浴下の書画と  
 展觀せし年々怠り其日文人墨客未集く大ハ盛ケケ

文阿弥長喜庵の西南小あり 閑阿弥附近西北小あり  
 各庭前小風景あり洛陽遊宴の一勝地也四時やも小其席小  
 集筵一 酣歌一 人々一 遊山一 坊中一 亞たり

遊雙林寺訪康頼舊跡  
 一到雙林淚濕巾曾聞康頼此截身  
 却知寶物集中意鬼界譎成佛界因 釋元政

雙林寺予古  
 雨後春流漲碧溪過橋夜景正凄々  
 漂零鬼界悲歡異依慕鶴林時日齊 崑垣秀明  
 苔補敗簷無月漏花焚古冢有禽棲  
 一聲寒磬知何處雙樹澹雲色相迷

西公陳跡足苔痕行樂三春客壓門  
 滿院風花香萬斛誰拈一辨吊清魂 画餅居士

長喜庵  
 花一 木一 林一 古一 宣長



西行頼阿の事記に由れり

いふ一人に於ては法法ひん位を以てしきは

東山雙林寺の頼阿法師の事記に由れり

本願寺の事記に由れり

山行法師の事記に由れり

十月の事記に由れり

阿弥の事記に由れり

文阿弥の廣間小法師の一曲とせん

やも火は云々

而後

宣長

芳秀

涼菟

月峯

完来

梅室

西行庵 當寺表門の内南側小あり往昔西行上人茶華園院を開基あり後小  
檀上厨子申し西行上人自作の像及び頼阿法師の自作の像を安置し  
ありては頼阿并ふ其歌道の師御子左為世入道明釋居士の厨子等も奇附  
書したるなり則左小等

東山三ノ四十三

入道前大納言爲世卿真像

嘉曆四年八月廿一日御遁世入高野山給

延元二年八月五日入滅八十九歳

御庵住之地爲寺号花折院今宿有蓮華谷 爲世卿

依此詠花折院冷泉爲村卿

園位上人頼阿法師の像を安置せ給ふ双林寺小真像を

納回縁ありては納りて阿弥陀經の書

あきき作む爲世卿の法衣中衣と道の志

西行上人の侍々双林寺より法衣中衣と道の志

頼阿法師と應安五年三月十一日入滅八十四歳

双林寺の双林寺小年久し法衣尚袂度思ふゆへ

見んききと補ひてありては厨子と侍々

花折院の事記に由れり

花折院の事記に由れり

明和七年二月十一日











十月二十日

更後蒼虬子屋朝陽九起今公成小及人々堂主代々嗣之就中

此近世の俳哲たり傳へ前奉妙傳寺の條下小出たり例年三月十日

花供養十月十二日時雨會を管り

大雅堂

雙林寺門前の北側小あり別室小觀世音の像を安置金鉤山長五寸五分  
霞推又九霞三岳等の号あり書畫を誦し大雅堂の通稱也野秋平名無名字大雅成  
小季又崎人傳等小出たり世入知る可なり其爲人の凡たあり墓  
住一聖護院村小移り又知恩院の西なる袋甲小轉一速小祇園の南葛原居小終り  
安永丙申四月十三日年五十四を没後門前の諸子其跡を空しくせん友を歎き  
古へ別山と云々木下長嘯子と置り歌仙堂の古き柱礎を有りと云々の山坊に請り  
其を墓と云々小造吏と云々歌仙堂の曰細と云々めけた軒の瓦は大雅堂と云々  
造りて昔々なり今小文雅の人相續し樹々風致を慕なりけり洛の新光寺小遺骨  
を墓に墓碑をたらし良友大典禪師銘文を書き高芙蓉篆額を書き了ゆふ因  
みふふ其全文を擧ぐ

故東山畫隱大雅堂君墓

池貸成歿矣既表墓焉而未銘也以爲請余嘗觀貸成  
爲人蕭散不以寵辱驚心善與物和而不苟合紆志外疎

放而內實修檢與人交謙損而不阿簡於禮法當往不往  
當答不答而顧諸義未嘗有所失惠而弗望廉而弗劌其  
於取予得失恬淡如也平生行事多出於人之所不意  
於是有所畸人之目焉貸成生平安幼而穎異學文學書無  
不能而獨長於繪事圖山水尤妙好遊名岳尤趨徒高峻  
幽奧無不戾極即取以爲毫端趣數登富士而每異其路  
因作富士圖一百各變狀態皆其所經覽古今畫工所未  
及也安永丙申四月十三日病卒于葛原草堂距生享保  
癸卯五月四日得年五十有四葬于舟岡之南淨光寺先  
塋之側貸成名無名始名勤遠近皆以大雅堂稱之妻玉  
瀾姓德山間靖不飾能配夫之行亦能畫有名無子家純  
悲夫世皆知大雅之畫而不知其行知其行而不知其心  
故爲叙其大畧如其世則存焉不待論也銘曰 若人胡  
不壽若人胡無嗣庶安子哉淨光之地  
安永六季丁酉六月 淡海竺常撰 韓天壽書

大雅堂題池隱士遺像

鷄衣蓬髮意怡然言語近禪形肖仙  
避世仍懷濟世志賣山不蓄買山錢  
襪林滿屋終容膝川字成腔時弄絃  
至竟深心誰可會空教性字藝中傳  
釋慈周



祇園女御古蹟

准林寺門前の北小の東西八間南北五間を占む。白河法皇の龍妃祇園女御の御館の跡。今此地を耕さず。其寺の廢跡。一畝有。地主成。昔。此地を領するもの。地と

盛衰記曰古人申々々清盛忠盛の子也非は白河院の御子也其故は彼帝感神院を信し御座し常小御幸有。或時祇園の西門北大路小家の女乃怪しき水扱桶を戴く麻の袂衣の修す。儀奉つ韓小桶をさぐる御幸を拜み奉る御門御目おかる御夏有々々還御の後彼女を宮中お召し玉躰小近き進せを祇園の巽小當り御所を造居られたる公御殿上人も重き人お思ひ奉る祇園女御を申々々今の蓮華院や申は彼女御の御所の跡を云東鑑曰鳥羽院御罷祇園女御者源仲宗妻也而召仙洞之後被配流仲宗於隱岐國云云梅川夏北筆記小洛東双林寺前西北小有一堆の丘山を其の

御殿の御跡蓮華院を建し所を傍小細道あり所小石有。雲根志云昔此石を双林寺の男寺内小石を其夜俄小澹言し翌日此石枕を小有。恐怖し元の地小返り即病愈たると云

皇太后妍子陵

前日所歿妍子の藤原氏攝政道長公の二女上東門院妍子同母あり前条の梅川筆記其代合と考ふなり

皇太后宮を治せり大なる御所なり云云

就鳥尾

往昔鷺尾中納言隆良卿の山莊今の高基寺の地辺なり故高基寺の村麓長老の遺る岩榭院あり中須賀川満元の寄進

東集

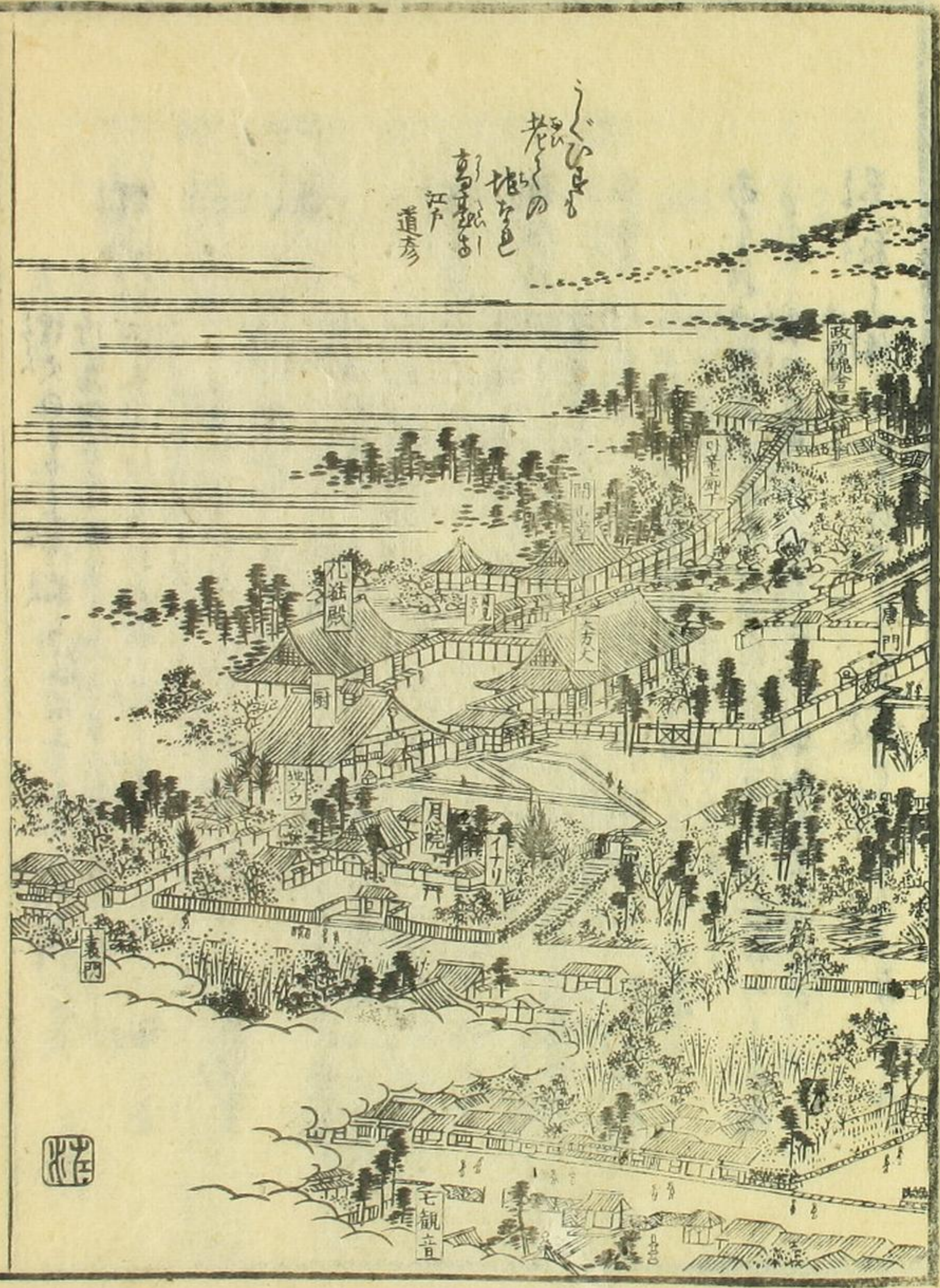
あられを治せり大なる御所なり云云

毎火小減く岩榭院の号今南禪寺の内なり

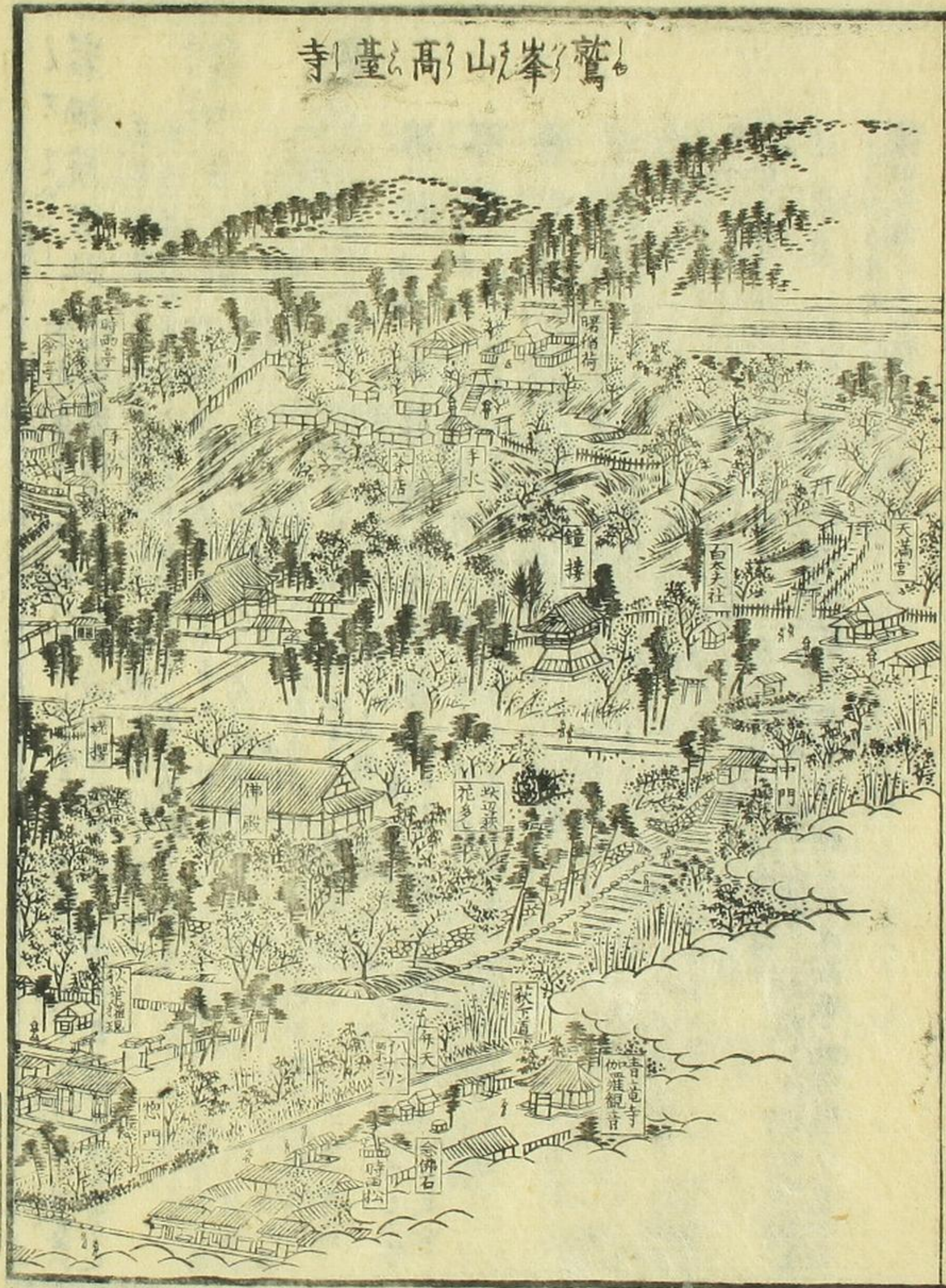








鷲峰山の高台寺





埋火のゆかりも青茶のゆかりもふんを召集らね  
 所物語をやあまの文のゆかりもゆかりも  
 埋火のあたをばあねねねねねねねねねね  
 ささささのゆかりもゆかりもゆかりも  
 むにんやあまのゆかりもゆかりもゆかりも  
 都のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 関東のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 ほろろのゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 寄多恵のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 めひわのゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 泉樂のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 みゆきゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 休んゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 あまれば茶のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 長門のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 茶教のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも

世の中はなれき事なまをたて佛のみをさへ  
 ちやちやぬくぬくの有りや  
 ちやちやぬくぬくの有りや  
 箱傍のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも  
 神のゆかりもゆかりもゆかりもゆかりも

開山堂

方丈の東方にありて天井は政所高基院殿の車の上座の天井と用ゆ開山  
 の像の堂の後より安の前の方中央に三益和尙の像長二尺七寸許あり  
 を安の左右の檀厨子中へ木下二位法印右は法印の室屋雲熱院西檀の厨子  
 中の堀置物の像を安の各坐像二尺四寸許額は法雲の二字雪月堂の筆前  
 庭に池ありて門の額に重圓の  
 二字雪月堂筆

本乃古公并政所公之靈舎

南向開山堂の東の山上より屋形造り善美を以て金銀  
 を鏤り五彩を以て花嚴の結構善美を以て  
 人目を驚かし唐冠持笏の二尺四寸許ありて安の贈瑞豊國大明神の額  
 後陽成帝の宸筆ありて政所の影像は法休の冠の帽子を著し薄衣の  
 金紋前黄地の袈裟を掛 菊潭水 御靈舎の前の  
 右の膝を立念珠を持

時雨茶屋

日所棟山上ありて  
 圓林泉名所あり  
 時雨の茶屋は安の園屈と号し廊下と川庵  
 中云小堀遠州作茶亭は手利休好造り所  
 城を移りて伏見

英雄猶未免情痴  
 畢竟優遊何耐狹  
 更思海外取鮮夷  
 中島規



政所公塔 山上ふあま法号高基院殿前住

天哉翁長嘯子塔 日所中あり後四位下左近衛権少将若狭守豊臣勝俊朝臣

号はまゝ天哉翁号白堂東翁号の数字あり和号と善し茶事と好んく諸

子交る後洛西大原野に移住する二十余年、一、慶安二年六月十五

日卒、年八十一、倉山常照寺小

築、又當山其塔を構ふ

抑當寺開基の弓箴機禪師也 當山梵籙の銘文則禪師の中興三

和尚其始建仁寺中常光院の住持也 作所なり寂年月詳なり

依今ふ至つ、當寺建仁寺小属の本願、政所高基院殿後住

湖月禪巨七母追福の爲小其始京極の北小於一寺を建立也

康徳寺や号せを慶長年中當山を草創、名を高基寺や

号したまひ方丈書院魂舎中門等小至るまゝ、政所公の殿

舎代以營む所なり故小花美壯麗なり華墨小盡りたり

天満宮 上檀の地巽の隅あり當寺の鎮守なり、所自画個數の所像豊公北政所

稻荷社 高基院殿の所附なり、本朝画史小見たり

日所山腹ふあま天保年中此地を開き建立する所なり、傍小茶店と

構へ、客と待遊興を進む、地志洛下と一望、勝景いんらんたり

獨秀峯

當山の後峯を、南面の眺望あり

當寺中、大樹の櫻數株あり、妖艶たる花の盛、園中

游宴を催し、長き春の日も、歸る途忘る輩多し

涼風きたる、秋の小萩花紫雲小等、咲乱きたる中、床

几を置並々、酒籬の人を招き、顔小飄る文人、駭士の爰小集ふ

媒中成、若媪の茶浅、勸め少女の盃を把、なやめり、浮き上る

たこい、心小く、後山小、茵茸あり、生ぬき、晚秋の上旬、都下の

兒女輩已か、狩得んや、群集り、或い酔あ、舞ひ、謠ひ、戯え

樂を、及、是當院の一佳觀也、また東山中の一仕事や、いふる

高基寺賞胡枝花

遊客隔花、花有隣、烹茶盪酒、咲呼頻

叢紅乍被風吹折、初作連狀相對人

みやこく々々、中ひ本と秋萩の花は、ひらとを、あ、結、

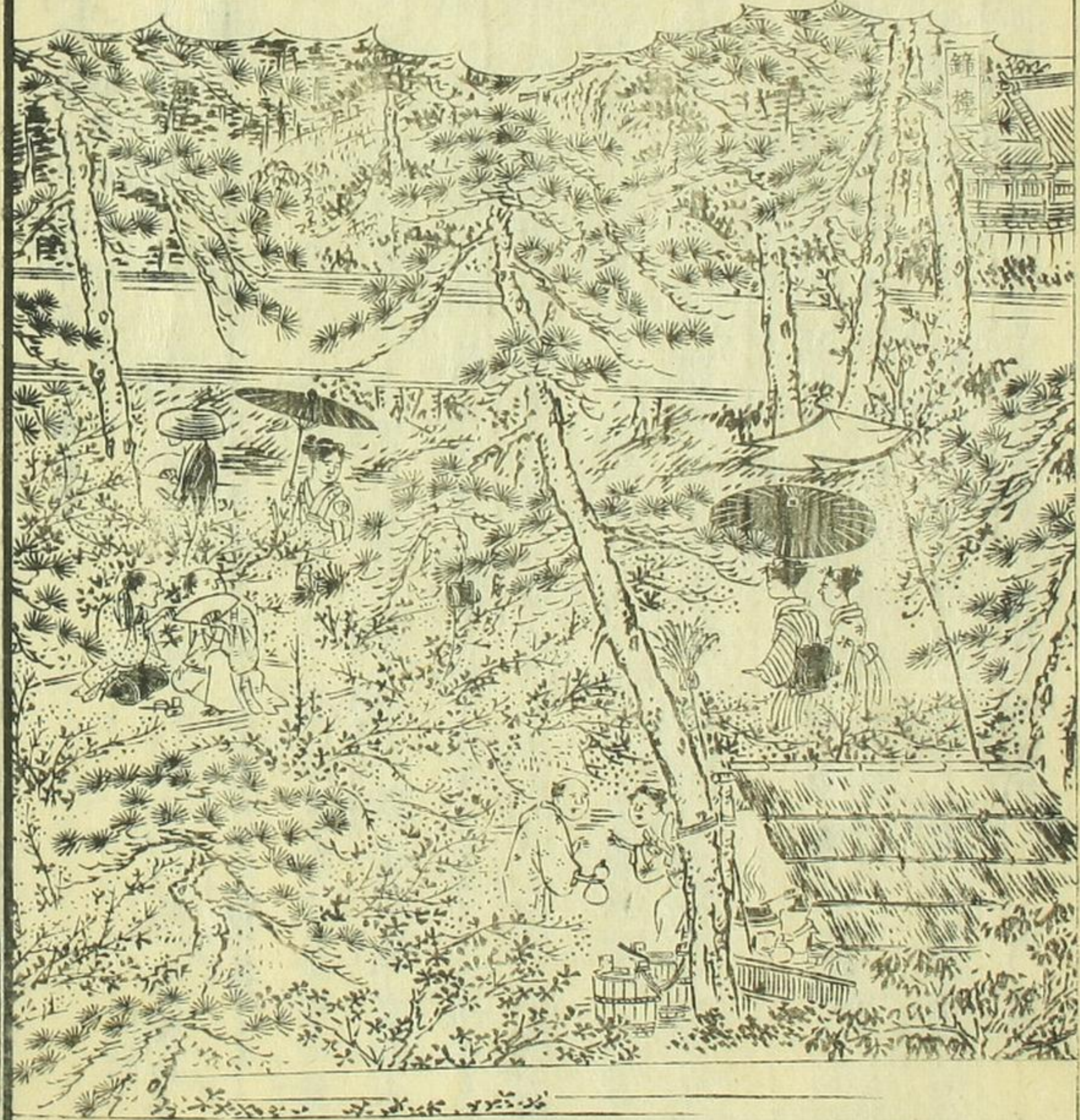
中嶋規、蒼生雄、来葉



高臺寺秋興  
萩見

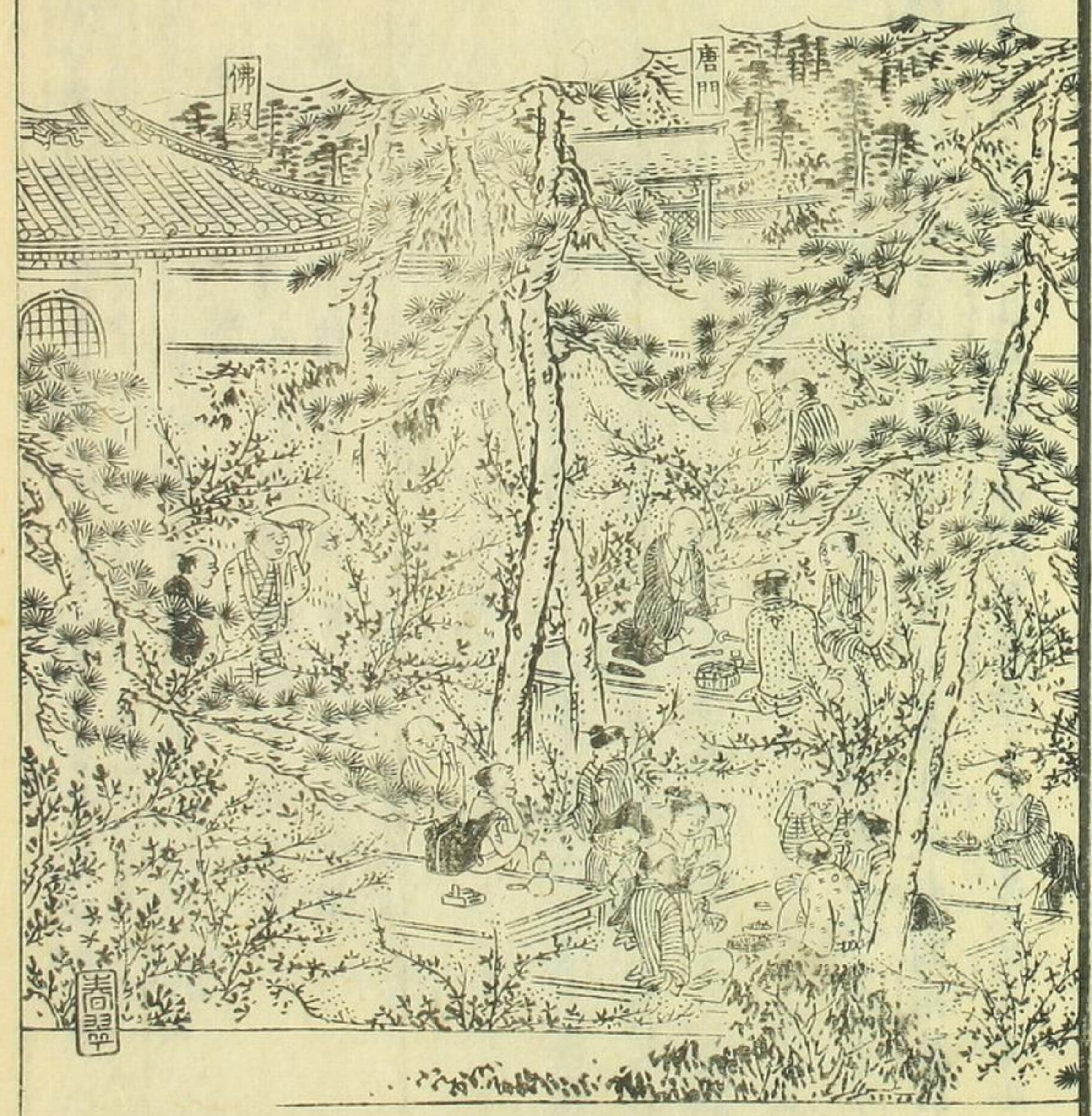
枝々  
考々  
茶礼

無ほもの  
あつきの  
秋の  
春臣



東山三五十一

今と昔あれ  
びり  
萩の  
池  
なら  
中  
河本  
延之



東山三五十一







四條の畔小居を移し下河原前谷小草堂を営み住と平住東山鴨渾の  
子あり伯彦藩小住と儒官  
たり弟ハ若くは後

澄月法師之墓 右日所小あり醉夢庵又翠雲軒や字以備中の産から幼  
此香山小堂に意小遊す有風流文雅上通れ武者  
小路実岳の門小あり和哥を修後洛東岡崎に住諸家と交遊の時平安天皇の御  
政十年五月二日寂し今五坊他梅辻春兼墓又貫名海屋の逆修塔也山中小あり貫名真言宗

七観音院

高基寺門前の西向あり宗貞真言宗  
洛陽三十三所第八番なり

本堂 東向 中央 如意輪觀世音 坐像二尺許 左右觀世音 坐像一尺  
六体安ら春日佛師の  
弘法大師作

當寺ハ其始ハ高倉院の勅額ふとく草創一則中尊如意輪觀  
音ハ御持念尊ゆ一宮中ハ安置ありと此地ハ移し天下泰平

の護持や一寺号を護持院と賜ふ其由緒を以今尚寶祚長  
遠玉体安全の御祈をり 月次の卷敷を内裡小敷其後春日

佛師の作る所の觀世音六体を合せ安置せしより世又稱し七觀  
音院や一此院中頂洛烏丸通藥師小遷る今町名を七觀音町や一

音院や一此院中頂洛烏丸通藥師小遷る今町名を七觀音町や一

桂橋寺舊趾

傳云此寺住昔下河原の南小あり其地開基詳か本尊ハ  
觀世音なり其寺荒廢の後四條仲源寺ハ安せを移る小  
熊野の謠曲小寺ハかりの橋柱や

青龍寺伽羅觀音

高基寺の南小路小あり  
洛陽三十三所第九番なり

本尊 聖觀音 傳云大佛の作なり 脇士 左毘沙門天 右地藏尊

當寺本尊ハ往古洛西小安置せしを長徳年中彼寺燒失せし  
其時ト當寺小移し傳へたる 本堂の前小大なる石あり  
天降と云い傳ふ音也

八坂墓

高基寺惣門の南八坂塔の北金園里西側人家の裏小あり今破壊し其  
形と失ふや一西方ト見上れ一唯の五ト北の方七觀音院の林  
並河氏云八坂墓在法觀寺塔北や記とハ是なり

延喜諸陵式云八坂墓贈正一位藤原氏在山城國愛宕郡八坂郷  
墓地十町墓戸一烟云 藤原氏諱ハ數子光孝天皇の外祖母なり

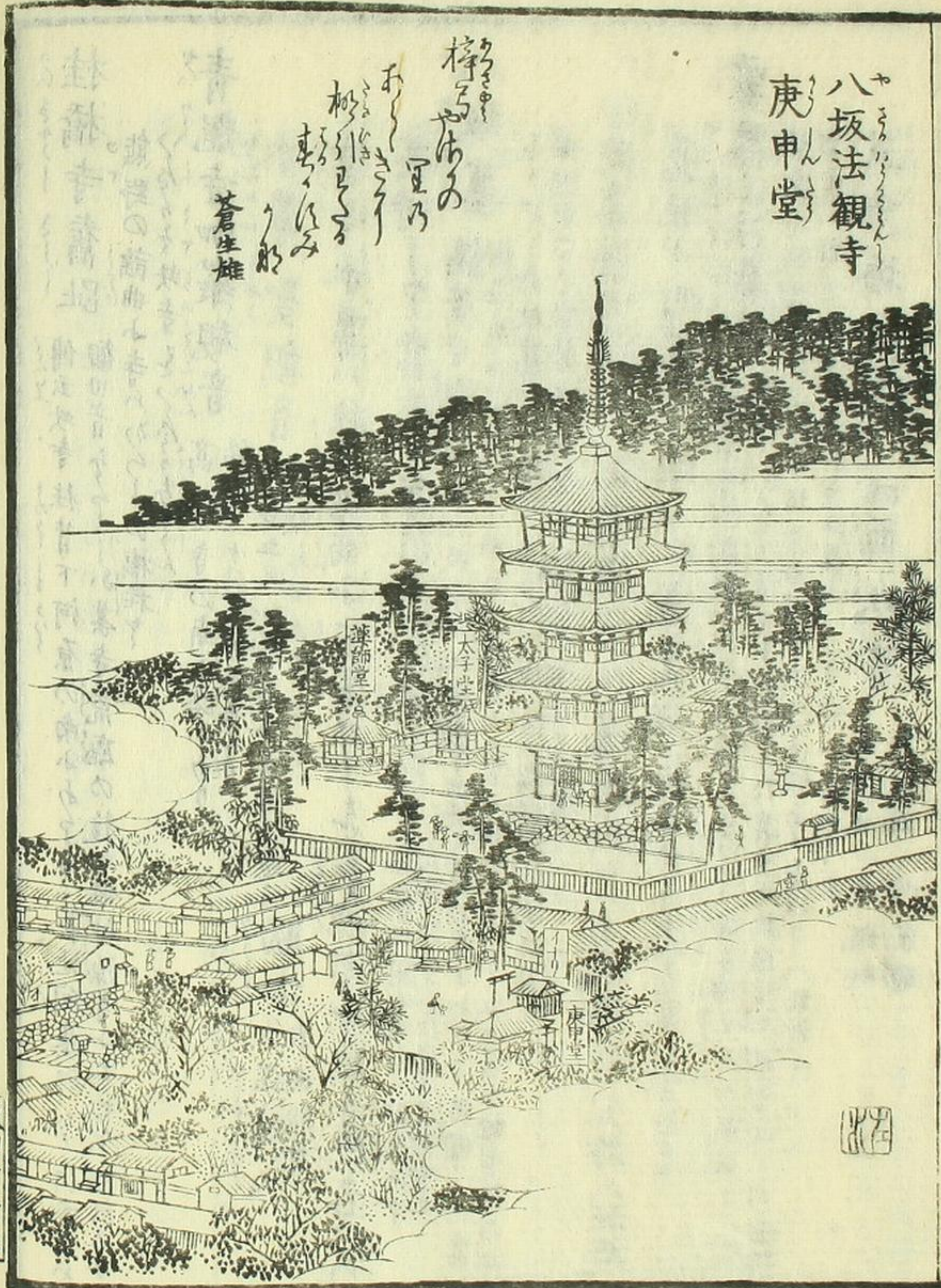
靈應山法觀寺

高基寺の東南あり八坂寺より八坂を御名なり祇園より三  
年坂ふつたるを方領し其中小祇園坂長樂寺坂下河原坂  
法觀寺坂靈山坂山の井坂清水坂等の八つの坂ありを以八坂御や

五重塔 寺内の 四面本尊 東大日 西釋迦 南阿闍 北密勝



八坂法観寺  
庚申堂



塔の北西の  
 薬師堂  
 太子堂  
 庚申堂  
 倉生雄

薬師堂

南向塔の北西のありて薬師如來  
十二神を安置

太子堂

塔の北のありて  
聖徳太子の像を安置

人麻呂社

寺納ありて東由

抑當寺の推古天皇の御宇聖徳太子建立し給ふ地ちう五重の  
 寶塔の聖徳太子常小持念いたる所の觀音大士の靈像の示  
 現おとろく此所より靈光の現ゆると見給ひ則これ靈地たるを  
 浅志るありて地中を穿ちりてふ一つの石籠ありて中小光明耀々  
 たる佛舍利を安んじ此故を以て寶塔を建立し彼佛舍利を其  
 下小蔵め給ふるを實小本朝最初の寶塔と云ふ然るに漸星霜  
 を經り頽廢せしを右大将頼朝卿建久三年小再建し其  
 中た正應四年小北條相模守貞時の母堂圓成禪定居士三ヶ所造營  
 修補等ありて施田若干を寄附し曆應元年足利尊氏公復佛舎  
 利を安んじ播磨守田池を寄附ありて修營以康永元年功成其時  
 夢想國師を請り慶讚以後永享八年災あり足利將軍義教公

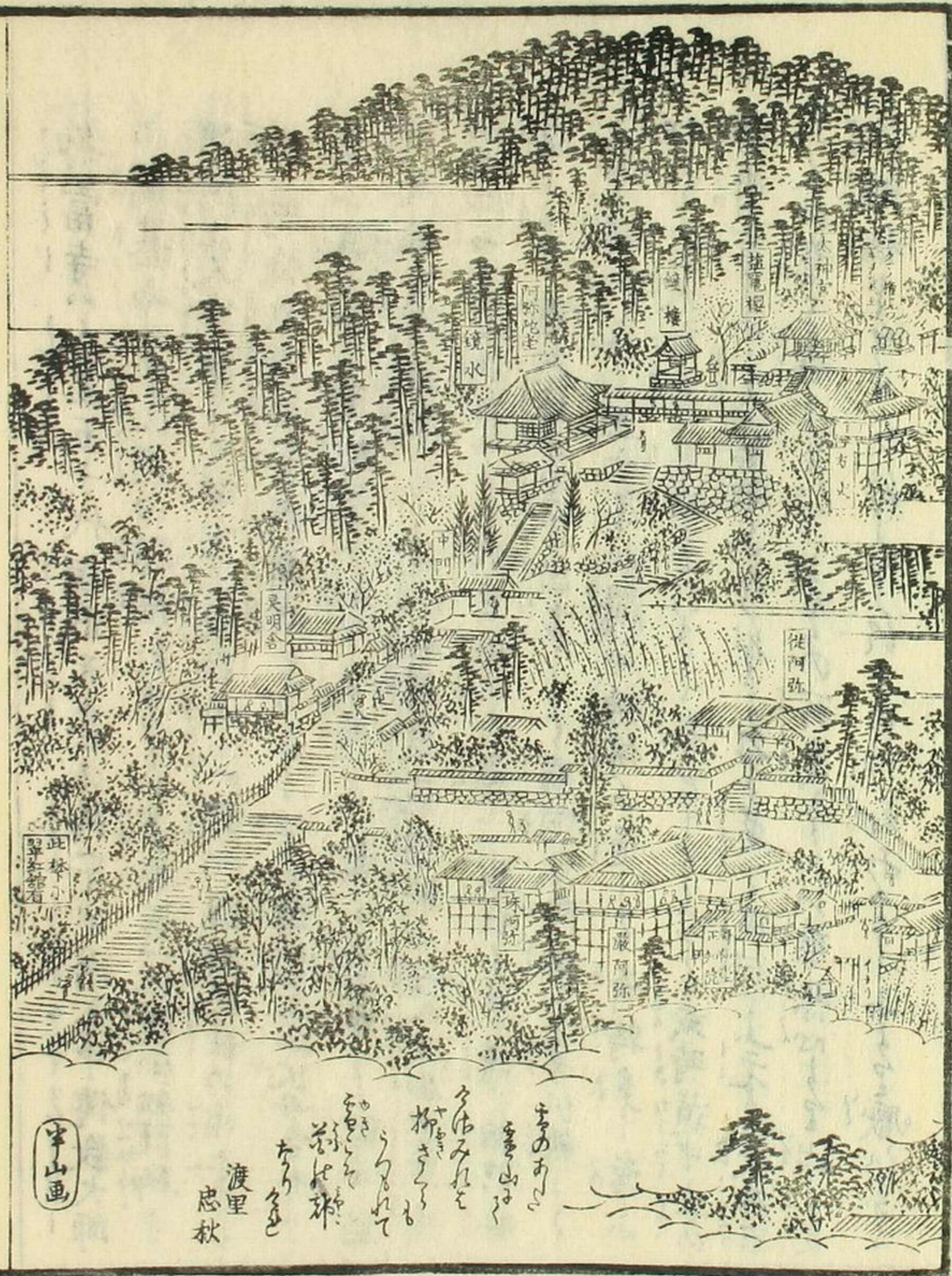








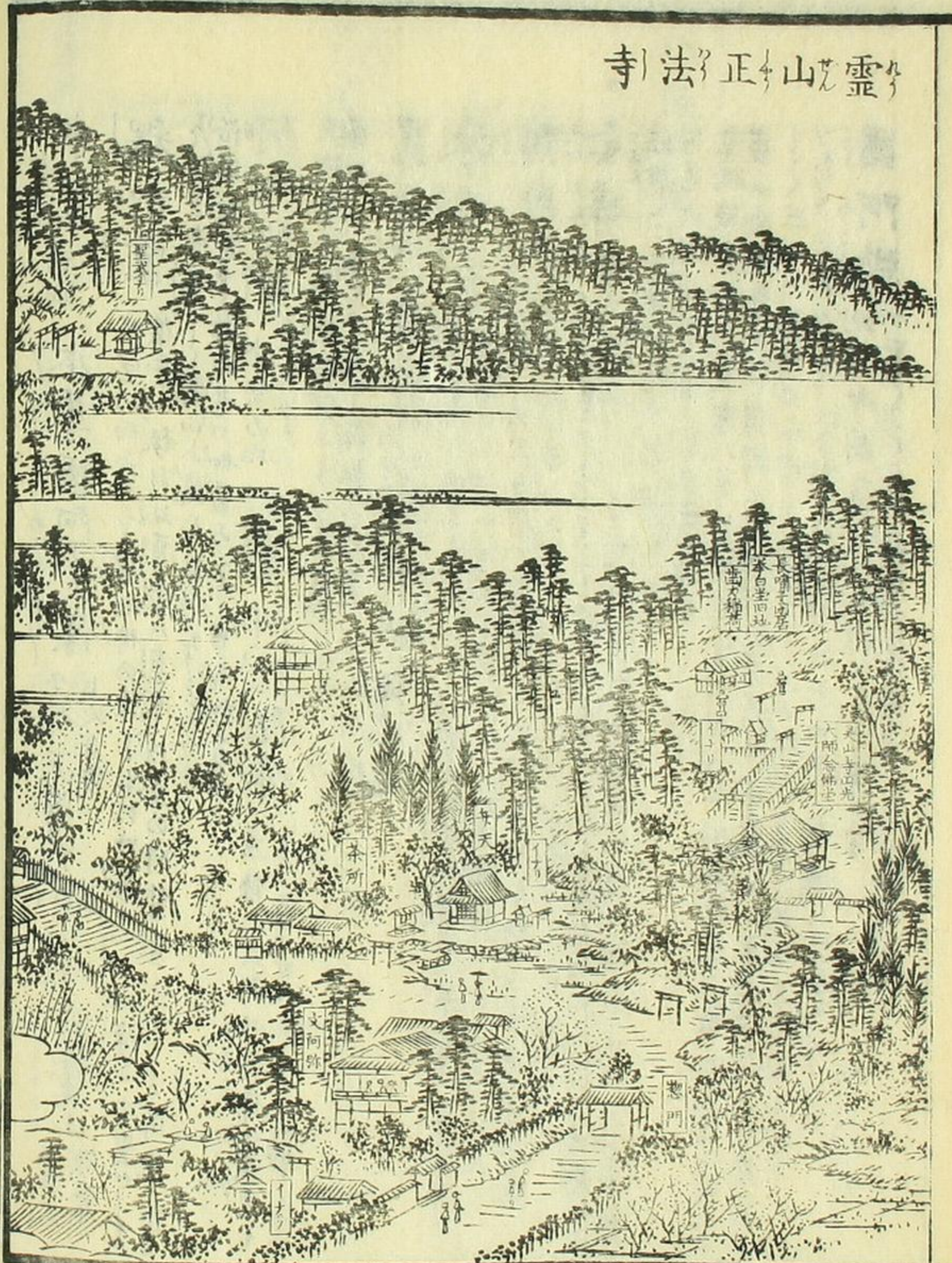




半山画

主のあり  
 多き山は  
 今作みれと  
 柳きくも  
 うつれて  
 花は秋  
 たる冬  
 渡里  
 忠秋

寺法正山靈



東山三十八



抑當寺ハ人皇五十代桓武天皇の御宇延暦年中傳教大師  
 の開基ゆゑ山門の別院たるが其後百一代後小松院御宇  
 國阿上人中興の時宗小改む上人ハ播州橋崎の莊の領主なり  
 姓ハ阿倍氏俗稱著崎國明ヤシテ父國利トシテ父母子なき  
 夏も夏へ十一面觀音を祈り感得し産王生色なりハ聴  
 明英敏ヲ成長し足利相國鹿苑院殿小仕人文和四年歲  
 四十二少故あり大菩提心を發し致仕を申請し相州藤  
 澤下り遊行寺小至り出家し國阿弥陀佛ヲ号し然り  
 修行危く五十年の間ニ神佛ヲ通し奇特多し常小  
 伊勢皇大神宮へ足駄をけき泰官トシテ或時道中少女の  
 骸骨有る上人慈眼をたれこれヲ葬り過行し元々大神宮  
 上人の意を様しゆ所の為たれ慈悲心より出り夏  
 故觸穢しゆゆりゆりの神勅ありしと云ふ厭ひあり

東山三ノ五九

泰詣ちたまふ此故を以て泰官の人ハ首途の前當寺小泰  
 詣り足駄を奉納し祈願せし思穢をのれ且道中少く  
 足痛等の憂ひを除くやと上人の水履并小杖等ハ熊野權現  
 より感得したまふ物なるや今猶寶物ヤ當寺小仕たり  
 國阿上人の縁起ヤ別ふあれや事繁雜小  
 一貫之ハ夏多し故小累ハ

ちけのゆるゆりののりけさゆふ林のまの浦はまみ西行

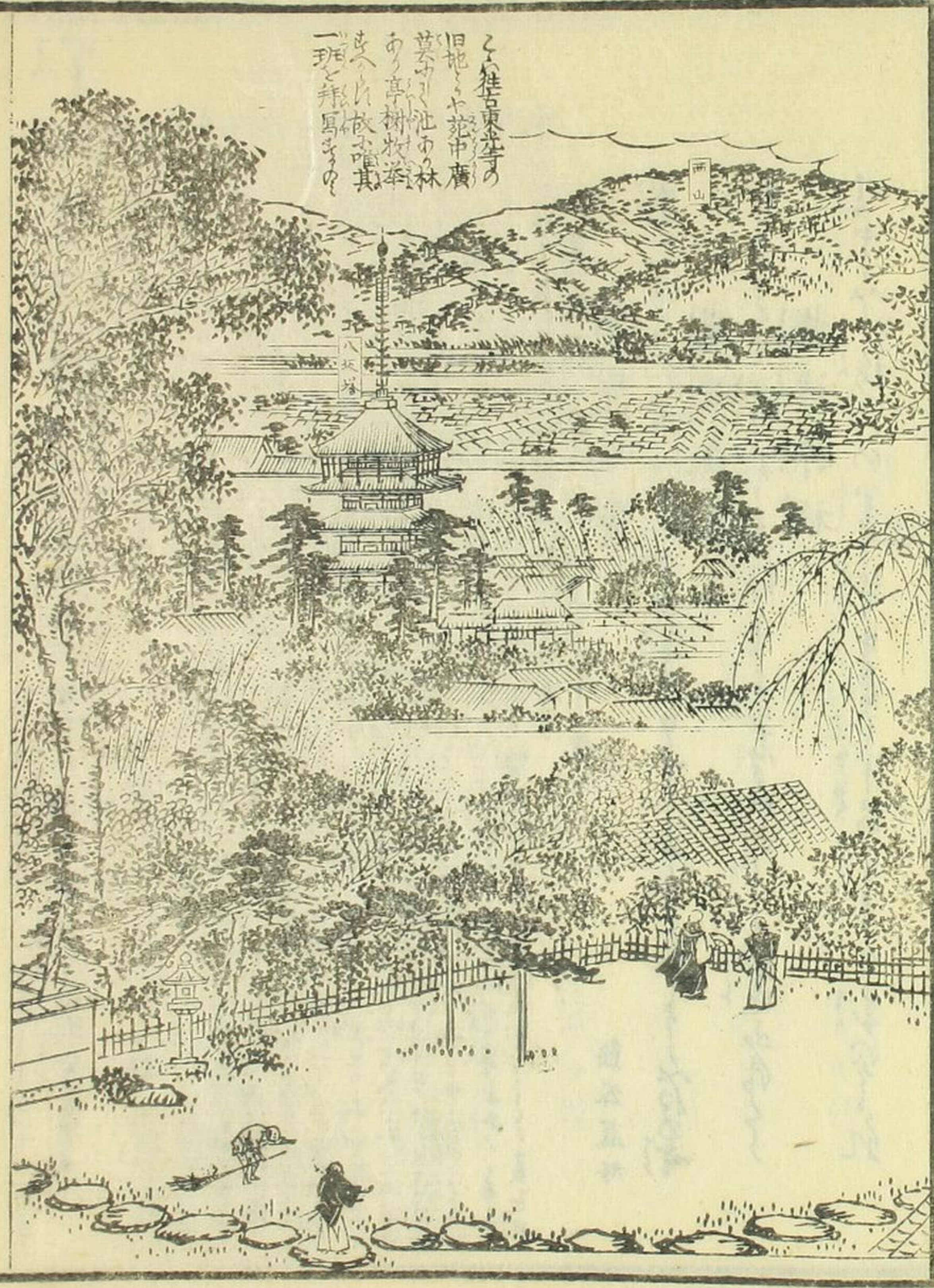
靈山春望

鷲峰樓閣倚晴空 楚客登臨作賦雄 清絢  
 五色雲中花似海 長安十萬戶春風

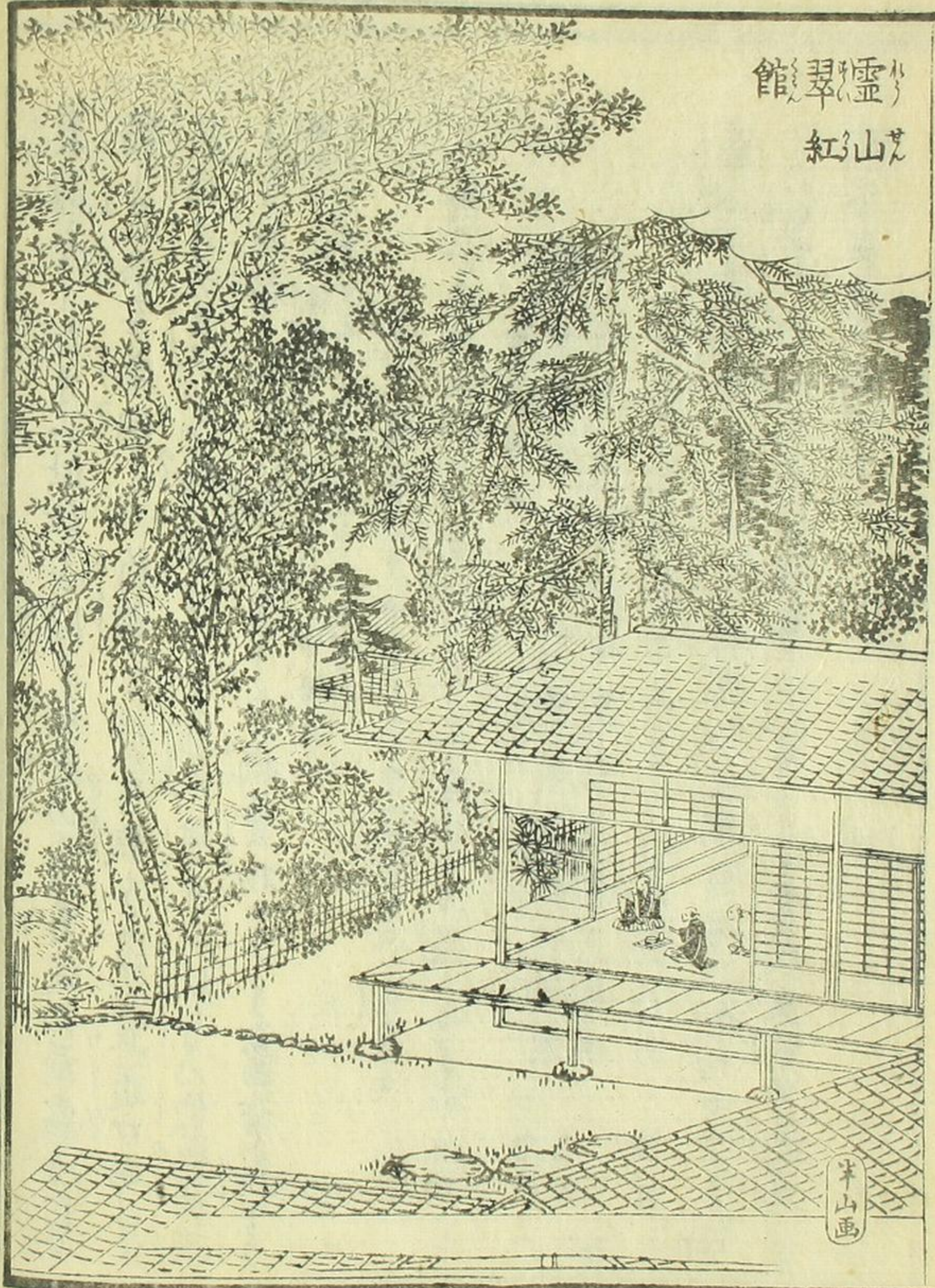
當山の境地中小珠阿弥後阿弥文阿弥等の數坊あり皆  
 かの圓山雙林寺等の諸寮小し書院庭前の美と云ふ  
 諸客談饗應せし



此の往東座の  
 旧地は、市中廣  
 葉の池の林  
 の亭樹林  
 及び、其  
 一、班、其



靈翠館  
 紅山



半山画







蓮の三毛をよみ侍り

有漏の身の付塔の... 空也上人廟

山城川宇治郡小野... 京師大雲院前住高譽性愚和尚大歎之

天和二年亥秋八月十八日 法眼黒川道祐

一心庵

梅ろ小西光寺... 三津坂の北東側

本堂

釋迦牟尼佛 行基菩薩作

鬼形鬼子母神

妙見宮 北隣小春宗 冥驗

當菴小蓮祖自筆の漫茶羅を付物... 小竹筒の漫茶羅... 漫茶羅灰燼中

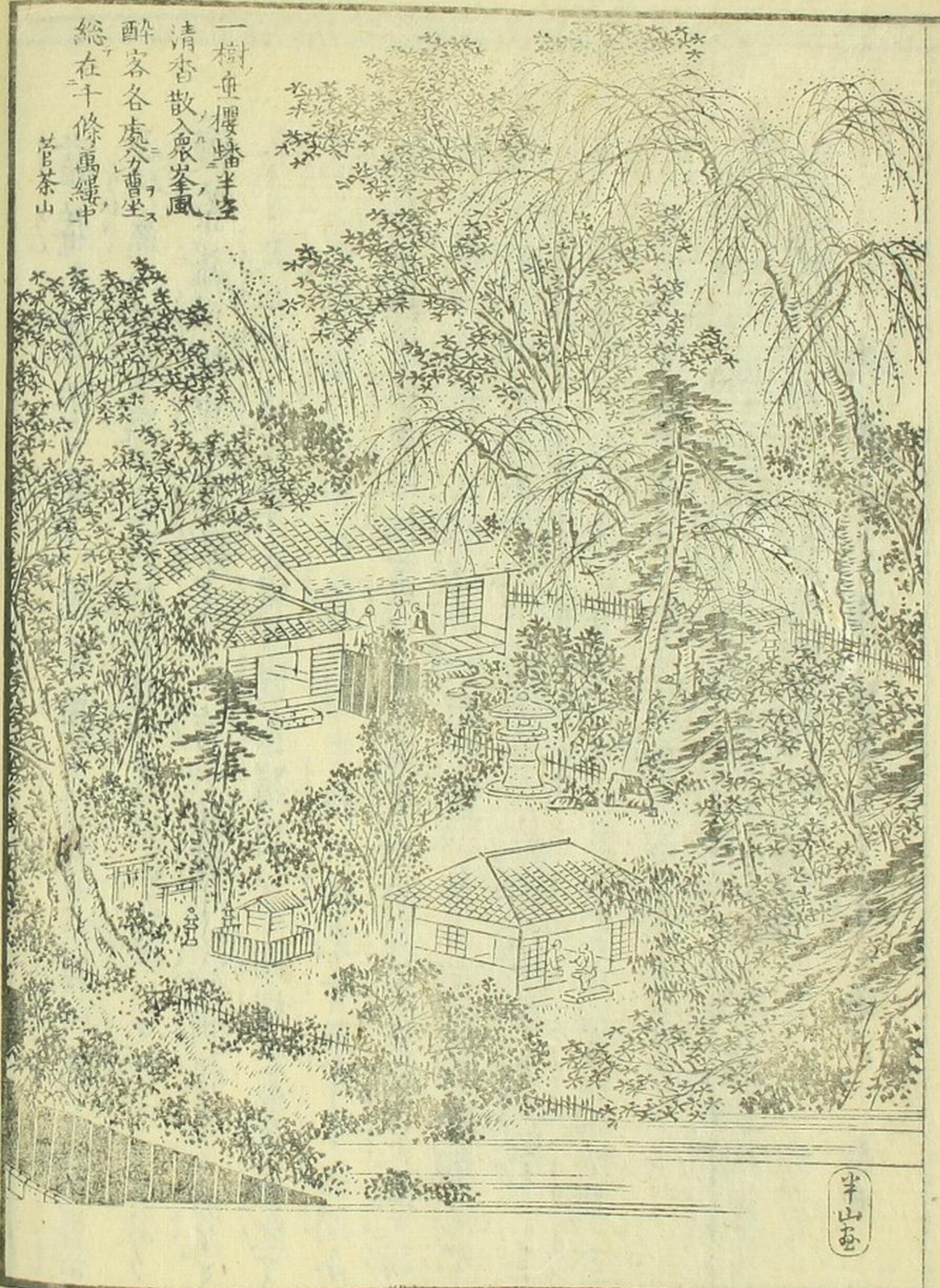
三年坂

靈山の南... 清水坂... 三年坂

桃栗も三年坂のちる本一非

季吟





一樹垂櫻蟠半空  
 清香散入衆峯風  
 醉客各處分曹坐  
 總在千條萬縷中

茗茶山

半山



中村氏別墅  
 鳴鳳亭  
 松原通三年坂の西有  
 坊西の人の五條坂を  
 迎き頃すく所古風格子  
 存存の庭前には  
 并楓の太木有又花  
 春秋の奇観なり

茗茶屋



三年坂經書堂  
大日堂



半山画

經書堂

松原通

經書堂

三年坂の上ふあを真言宗か  
末迎院や野

本尊

聖徳太子

十六歳像三又詩

脇檀

阿弥陀觀世音

此寺開基ハ聖徳太子中々太子此所小於三尊の弥陀佛空

中小影向一たまふと拜々草創給ふ所たる小石を集輯

道俗の男女小法華經及び諸大乘經等と書一免潤水

諸職會靈を吊々々自他得益の種因授けたまふ善巧方

便の地たるを

大日堂

經書堂の東向ふあを金性院や号ハ真言道三途川老婆像と安

竹塚

今詳々化鳥を中々是也竹を中々置清盛寺岡ふつられた

清盛取止也吉祥たる南基の竹を中々置清盛寺岡ふつられた

大日堂

經書堂の東南側ハあを始め富小路中門の南小あを尊像寺や号

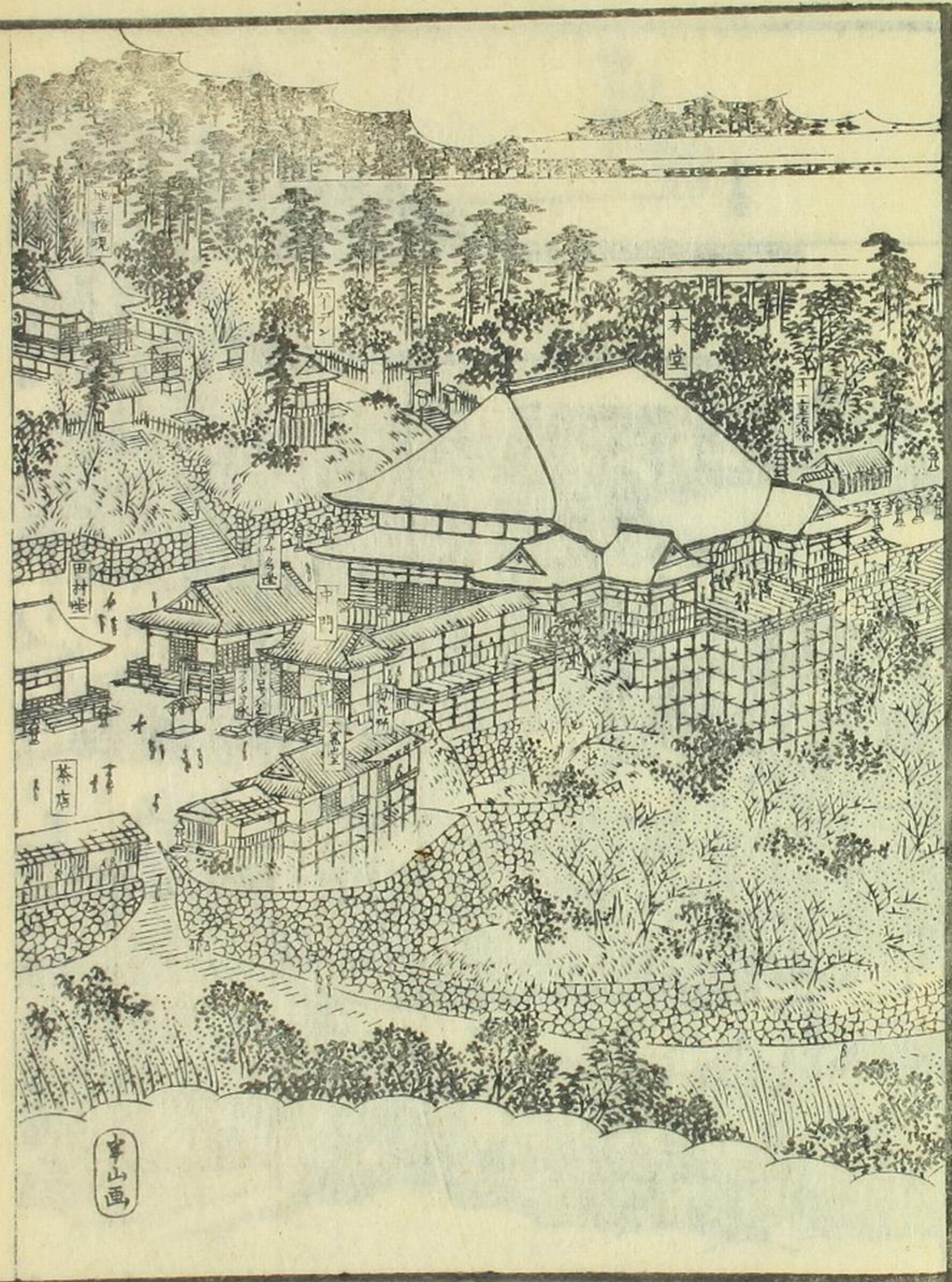
後坂所小移真福寺や改む此地ハ元車寄馬止のあを所たる

本尊 大日如來 坐像七尺奇 弘法大師作 輪藏 堂内小あを真盛上人藏徑の上

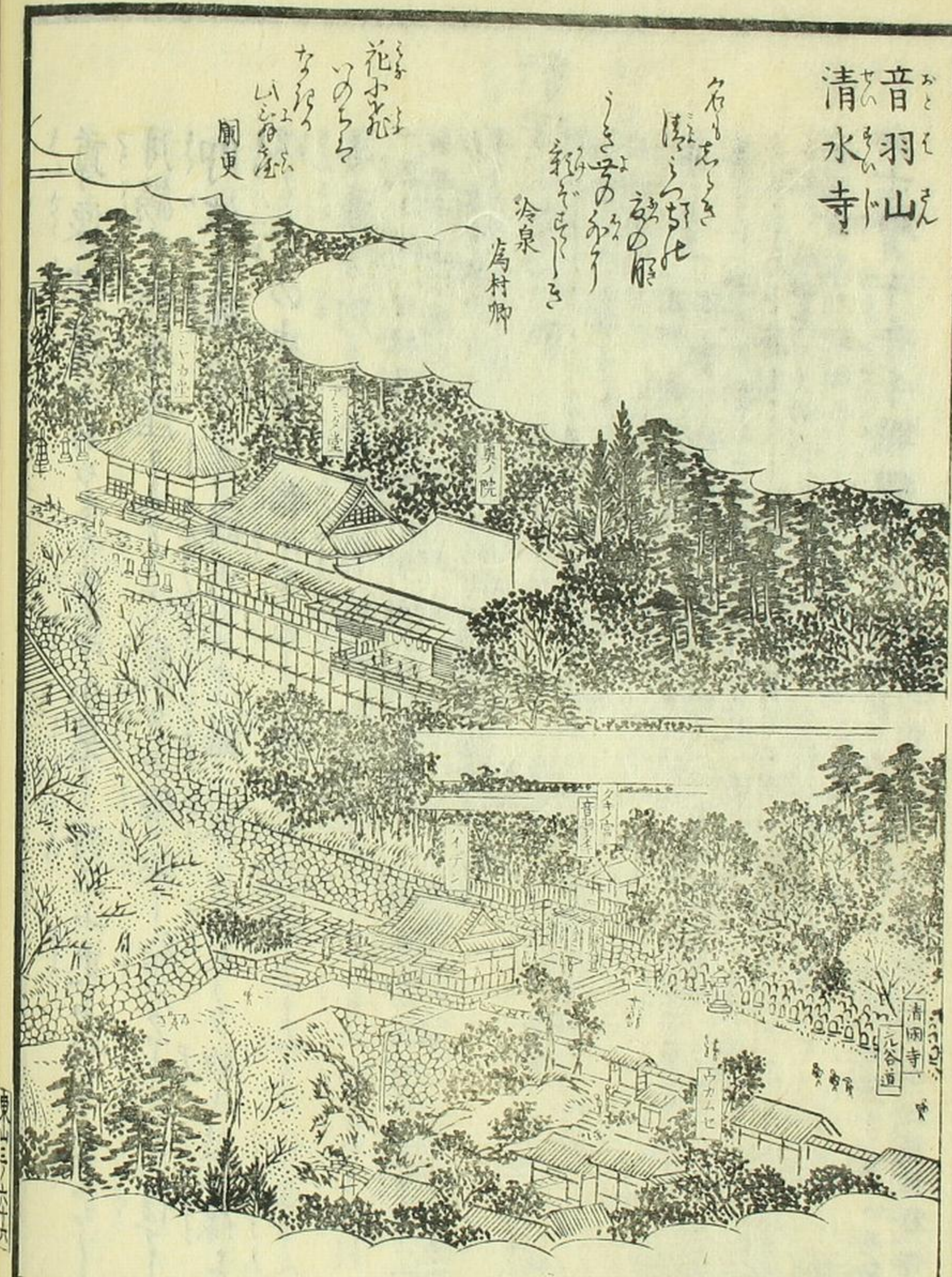








摩山画



音羽山  
清水寺

名もなき  
清らかな  
うきよの  
新くまの  
冷泉  
為村卿

花小  
いのら  
なげ  
い  
廟更

摩山画







其餘二十八部衆新作あり  
 各檀上にお好置き  
 枿中の裏坊に於て坊迎ふあり故に名付  
 水と号し谷義譯し蓋し其泉常にお涌出  
 く山上より  
 来りたり  
 眞影故あり  
 考く毎月十七八兩日開扉  
 田村堂 南向 朝倉堂の西におあり  
 以末堂と田村堂とあり 田村將軍の壽像及び  
 行敷進鎮僧都等の像を安置  
 經堂 南向 田村堂の西におあり 法華三昧堂  
 文殊 普賢 又西面三十三所の觀音を安置  
 三重寶塔 安置の西におあり 大田如表坐像と  
 各六尺許 坊楹上へ平安一望の地あり 且西南に、渡川の浪流一筋、白く現はる  
 樓門 西向 左右金剛童子を置く各一丈許  
 隨求堂 西向 西門の北東におあり 隨求菩薩を安置  
 抑當寺 往昔山城國相樂郡木津の川上にお續く大和國小  
 有りと桓武天皇の平安城遷都の後寺は此地に移し給ふ

其来由と尋り大和國小嶋寺の沙門延鎮寶龜九年は夏  
 靈夢と感ずる夏有く木津川の辺にお行し見ると一筋の流は  
 金色の光体を呈し其流は不添く源を索し直ちお登り夏  
 須臾おと遂に一條の滝あり所小なる傍をみれば芽生背たり  
 菴にお白衣を著せし若翁端然と坐を鎮其形容凡人  
 ちりりたる夏を知り庵小令禮拜しつゝ人々を問ふ爾答へ  
 く曰く我は行棧居士なり此地にお住する夏既小二百歳常小  
 千手真言を誦し御身の来るを待する久し我は東小行を  
 思ふ志あり御身暫く此地にお住し久し我は一箇の靈木あり此  
 木を以て大悲の尊像と作り精舎を建管せん願あり若我東  
 行の歸り遅く我をけり此志願を成就せし給ふやん  
 置き東を休し出行ぬ鎮より夢中の告あり我の  
 意小隨ひ此所小住し或時東の嶺上やかの翁の履と拾つ







遠く人々鎮中俱に攀の仁了滝の岸上を見よ  
不思議や金色の光は一千年の陀羅尼空中に聞ゆ依り此  
所小田村麻呂の茅宅を引移し佛殿を安置し  
北観音寺を号し後清水寺を改む或時桓武天皇御惱の御  
夏有し小延鎮泰内加持奉り忽小御平愈ましく  
たまひし殊小敬感あり鎮に十禅師を任し田村  
麻呂小殿舎を賜ひ佛殿造管せし然る小此地峻岨り  
平坦の所なく廣大の殿舎建ふべきを覺るは如何を  
煩勞せし一夜風雨起る雷電落降岸を穿ち溪を埋ん  
忽平地を成す是れ小大悲の妙智力を示す則殿舎を  
引く此地を建立し件の故を以て本堂の屋根今に至り  
檜皮葺く殿舎造るなり  
元の堂は田村堂と号し今改所小田村將取の毒衛と云  
勝士勝軍地藏菩薩勝敵毘沙門天を安置し由縁のり

田村九東夷征伐の詔を以て征夷大将軍を任し陸奥出陣の  
折柄當本尊小朝敵降伏の御祈誓を掛くは延鎮以兩像  
を作つて征敵勝軍の法を修り小靈應をたらし空に  
大悲の尊体の戰場に出現し寶箭を放ち小箭尽るは  
一僧一男箭を拾ひ来つて大悲小捧け悉く東夷の凶徒を退治  
かたり給ふ此一僧一男を見んは則服士の二尊なり田村磨  
凱陣歸洛の後尊像を拜し小兩像共小箭痕所を小あを田村  
將軍大悲の加護延鎮を修験と奉聞し太政官府の宣旨に  
蒙り堂塔を建立しそれより勅願所なり  
當山縁起の圖画は土佐老信詞書の當時の能筆の公卿六人の手跡し今執行の文庫に收む  
元亨釋書延鎮傳曰釋延鎮報恩法師徒也居清水寺與坂上  
將軍田村遇因爲親友將軍奉救伐奥州逆賊高九鎮曰我  
兼皇詔征夷賊若不假法力爭得不辱命公其如意焉鎮諾



高九已陷駿州次清見関聞將軍出帥退保奥州官師與賊交鋒官軍矢盡于時小比立及小男子拾矢與將軍將軍異之已而將軍親射高九而斃於神樂崗獻首帝城將軍先詣鎮日曰師護念已誅逆叛不知師之所修何法哉鎮曰我法中有勝軍地藏勝敵毘沙門我造二像供修耳云

格下當寺鐵起少田村九鈴麻山鬼神退治の度見えたるれ其の諸書小夏元亨家書なり鎮傳ふあり神樂岡や少く奥州なり今鈴麻山神樂岡何や物諸長門本小評ふ一々賞ゆ尚考ふなり又七岳景清主馬助盛久久長駿寺ハ我家右今著聞集小見え其名世高

登清水大悲閣

樹抄峻増古佛樓登臨縱目此中遊  
九街春老神州色匹練雲含鴨水流  
初地泉鳴懸石上諸天花散遍欄頭  
到來觀世風塵外始悟吾生如是淨  
山暖小櫻春占先大悲閣外簇芳妍  
全都爭詣慈雲座人影夜香在半天

龍公美

中島規

東山三十一

清水寺の夜のそら  
いゆるのそらのそら  
たのふらふら  
れそ

景樹

全

長廣

詩六

一滴

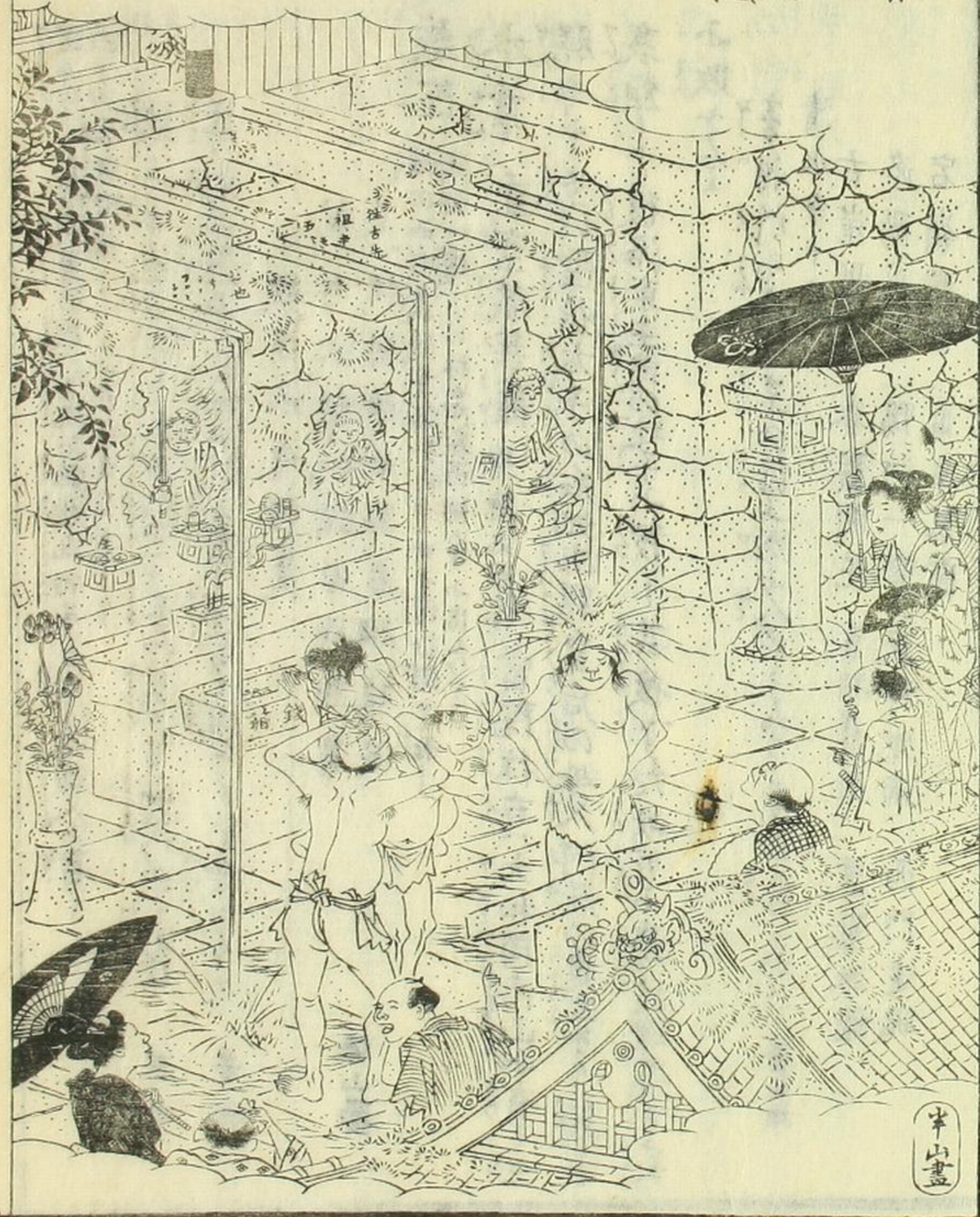
其角

尚白

奥千手堂 俗奥の院 本尊 千手觀世音 立像 脇土地蔵毘沙門  
阿弥陀堂 西向奥の院の傍小 本尊 阿弥陀佛 坐像七  
釋迦堂 北小並ふ 本尊 釋迦佛 坐像一尺七寸許



音羽之滝



半山畫

悪七兵衛景清凡形観音 春日社 鹿間塚 又饒摩小作或云昇  
 其地傳説より俱ふ三王門の内ふり其景清守本尊諸家の碑銘等境内ふり  
 坊中の庭際等ハ秋泉石開國會ふ載たれり  
 地主権現社 本堂の後北の 祭神 大己貴命或曰田村將軍の神  
 靈をいふも傳ふ當社の清水坂八坂郷の産沙神少々例歳四月  
 九日神輿を出し祭式嚴重なり

第五橋東山路斜飛泉吹雪梵王家  
 太平有象遊人喜乱後初看地主花  
 地主天神櫻与梅東山北野被花催  
 惠詩到處雖題去音羽飛流好流回

天龍

惟雪

季吟

其角

竹有

音羽之滝 奥の院の崖下より本堂の東方より石壇七十二階を降る滝の下  
 至る滝口三條西小向ひ落つ源ハ後山鬼ヶ淵の地より出づ水極々  
 滝流たり拾芥抄小所謂五名水の一なり滝上小社あり此鎮僧都龍神と勧請  
 滝の守護神と滝の宮や称ふ病悩り者飛泉浴し祈誓ひく小應驗



速く下流に流るる類は物等を冷し諸人小齋く  
浴下の良殿避暑をこころを忘るる

花外水聲加 欄頭雨點集  
及一陀羅綺 紅靜着 胭脂濕  
顯清水寺雨景  
顔山陽

南蔵院

滝の西面清閑寺路ふあせ世に清む瀨を稱し  
冥鏡の場より林泉名所國會ふ出たる

本尊 虚空蔵菩薩 聖徳太子作 當院往古大和國內山ふ有る主  
膳寺や号し聖徳太子の后妃主膳皇后の母入阿尼の建立なり其寺

裏類 後洛東主典の辻子小移し其後また此所へ遷り近年また大  
小敗や

- 清水寺十景
- 古崖懸泉 春巖開花 音羽疊翠 靈鷲疎鐘
- 洛陽萬古 鴨河一帶 東郊烟雨 西門遠眺
- 宕嶺晴雪 龜阜暮靄
- 蒼生雄

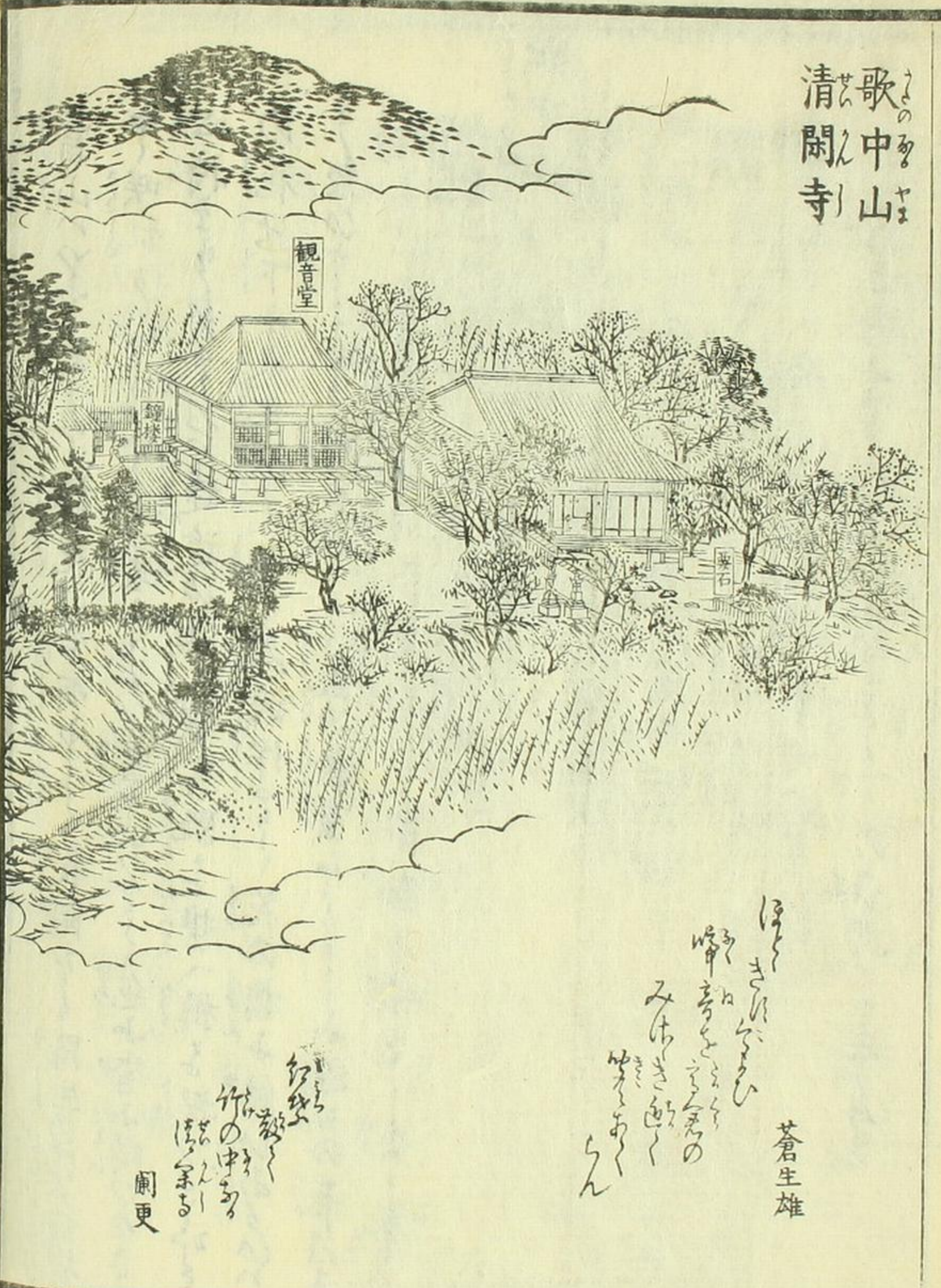
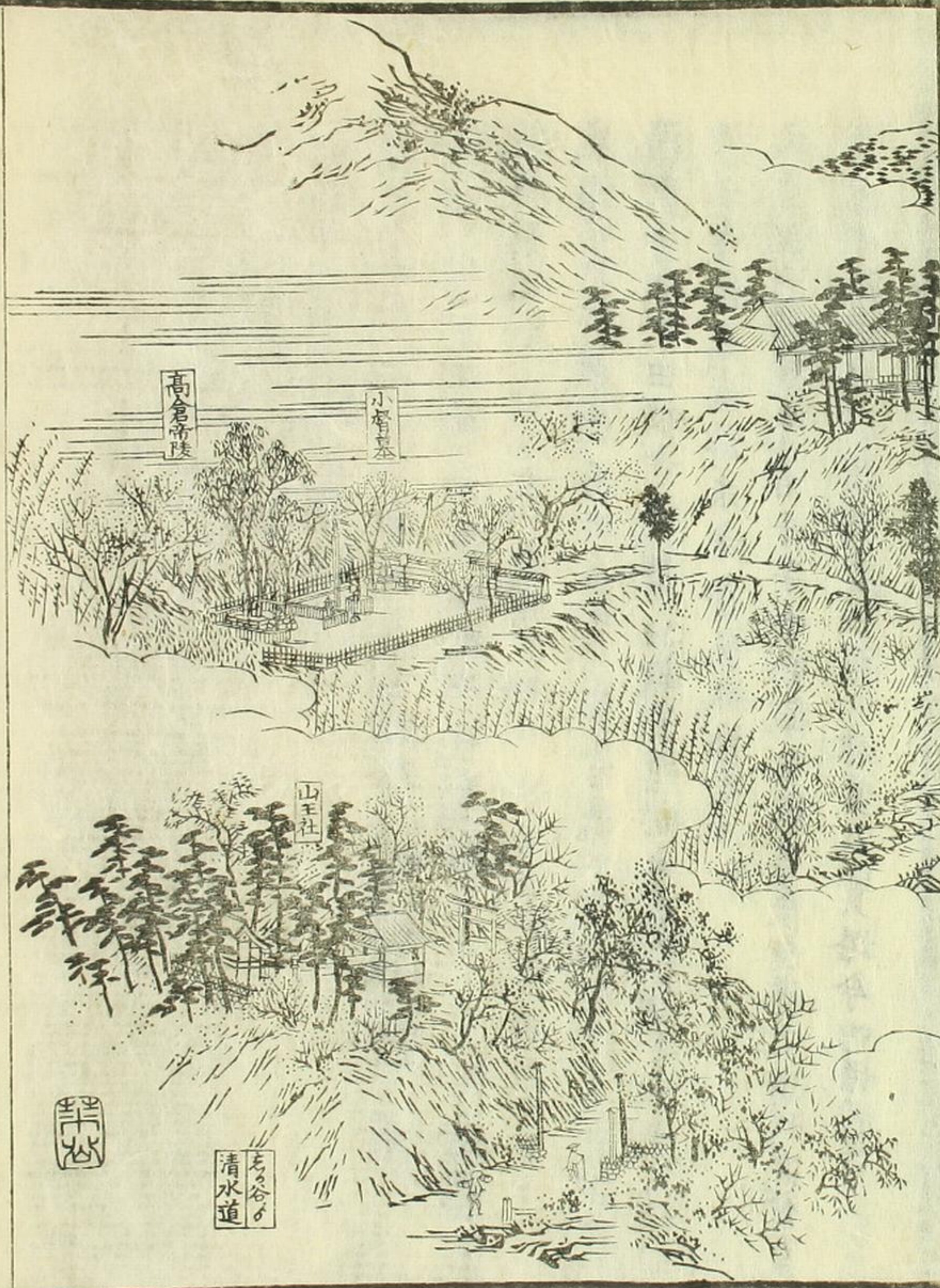
歌中山

清水の滝の南に清閑寺

當山ハハヤ人ト云キ櫻花の名所中々長閑なり 弥生の頃ハ爛熳  
中々咲乱れを伴はるる雲小まき雪やちるる色小香小酔つるさ  
心持をそはれされ遠近の游人騷客瓢を携へ樽を授つてか  
の花は下小来集ひて歌よみ詩作るる花の梢小結ひあひ  
うたひやよめき戯れと興 盃の數重なるまよ小遅日の暮れも  
打よひて音羽山の月影小驚き 歸路を催はるる有る實小  
千金の春色ふ 洛東一の勝地たるをり

寺説小云む 清閑寺の真贋僧都より人住るあはれこれ  
門外ふたきみ行ふ人を見らる折し髪かきあめたき  
女のたひやまゆを見し忽ち愛心おこるる物にひくたき  
便りあはれ清水への道は何もそや問はれぬ女  
みよふたふまよふのけはるるまよのたき





歌中山  
清閑寺

観音堂  
竹の中  
清水道  
關更

蒼生雄  
ほろ  
きり  
峰  
み  
あ







るき作ありし其文は波羅よを清閑寺小程奉る殿上や  
まの後の所名の定めありけりも高倉のりたる大路や後の  
御名の所たるみ小残り東山つりける峯のり限の所住りて  
らんや思ふもかきく小夜もや文のり山前僧を奉る集りて  
あれなき寺をわびやもはくやふ常の所事ゆりせくわたり  
了りて迎衛舎人をもまき奉る推分ちり警蹕の聲は別と忽啼ふ  
かへ朝をたれもるそと八年来の宮仕と今ね小限つ巴峽小堂と  
様の叫ひゆるり鶴の林子薪を焼く煙も迷ひ常の事ふるりぬ  
あまはまもはくふもるまのわりの道よる行のりあやも  
峯のまのり水をまきふりけり志はくや山の中もや小堂の  
寺殿をわたり奉る俗の念佛唱へあひたりも香山界の法を  
ま入學の羅漢のありまきくややん徳の音のりかきく小團  
りも祇園精舎の無常院の心地は光をりまきく玉の所車も夜乃

東山三七七十六

煙をけりかく立のり色をりまきく錦の所事も春の若も  
かた時をたれ奉らけり一輩も恩愛の思ひをりまきくれや生ぬ  
ふりまきくはく妻子女宝及王位まきくや御身小後者もたれ  
わりまきく山の中も御身のまきくやいゆるりまきく三時  
あつけれき奉る法華道場をまきく各ゆるりまきくれおきま  
奉のりまきくれ先たつりまきくやまきくや思ひまきく  
山の麓の陵原をまきくのりまきく思ひ北芒の落東岱の煙を  
みおたりまきくやまきく

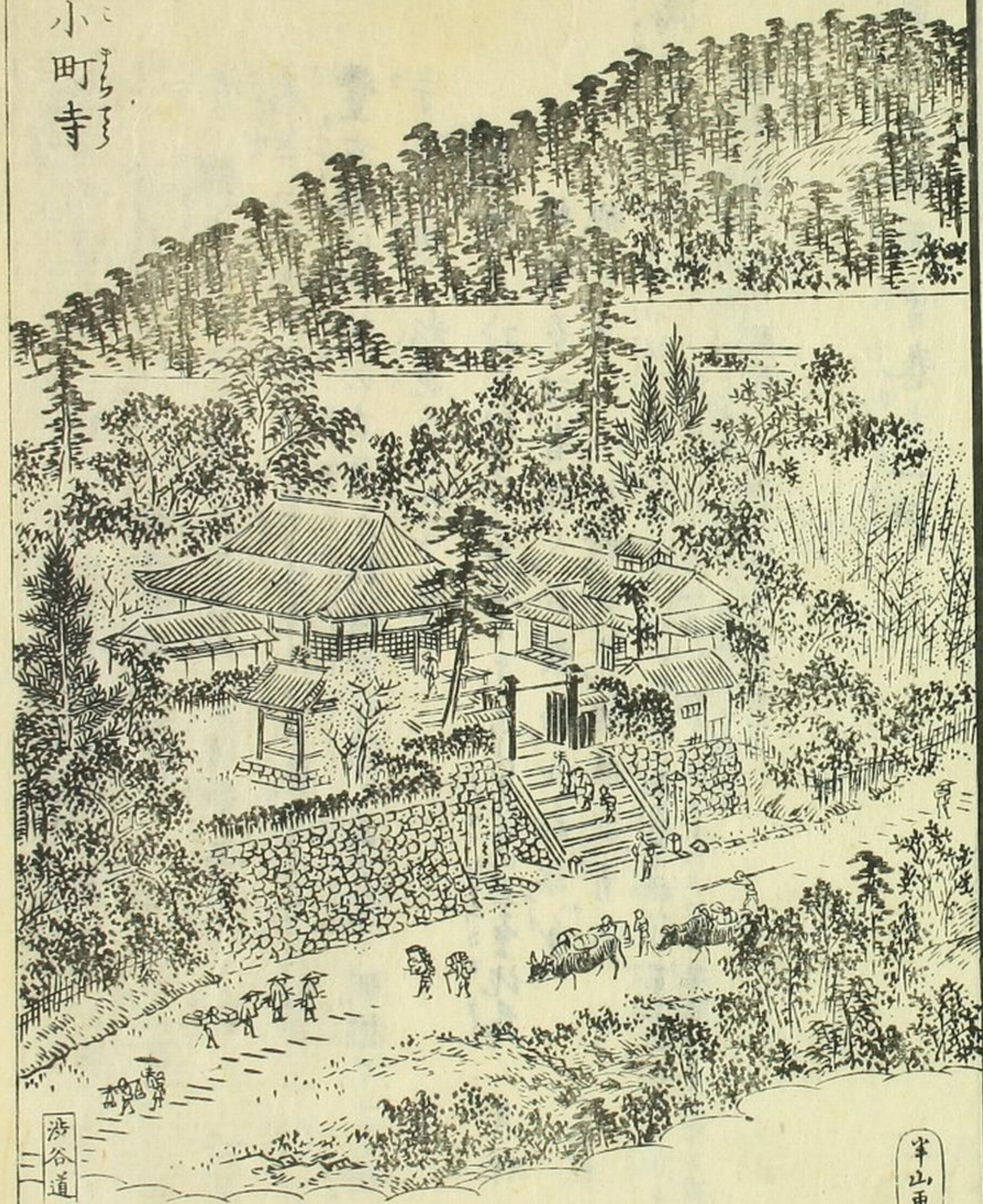
百練抄曰建保二年五月廿五日於天台座主吉水坊有如法經十種  
供養是奉為高倉院御菩提上皇殊抽散慮與僧正沙汰先院御  
陵以下天台所々可被安置云前王廟記曰今法華堂退轉  
小督塔御塔の左傍あり小督は後中納言の女帝の御寵遇を得  
盛衰記曰入道何や小督の御遺詔より聞付り小督の當山小築源大夫判官を召り







小町寺



沿谷道

半山画

拜志墓

清閑寺の西方山上古松及び大石あり所とせ

五月五日 終のねのたし

警水 貞室

延喜式曰贈正一位藤原朝臣総繼在山城國愛宕郡鳥戸郷墓地四町墓戸一畑

中尾陵

右拜志墓より南谷を隔て潘谷街道右手小松谷正林寺の後山鷲祖蔭麦の木像と置あり其上方小松の生有中大石頭あり是なり仁明帝の皇后あり

延喜式曰贈皇太后藤原氏在山城國愛宕郡鳥部郷陵戸五畑山四町五段四至東限谷南限田西限隍北限谷

本國寺墓所

潘谷街道の右側あり俗本國寺山中より石階數十段の上小表門番神堂あり

玉章地藏堂

日街道の東路傍あり世小甲寺あり坐像七尺許土を以て造る或云胎内小石の五輪あり

銘慈眼大姉や記の年月詳なり



傳云此尊像小野小町の作なり此人艶色世小双ひなき深  
以て浮男心を悩む故に親疎の分別を贈る所の艶書降雨の  
如く錦木の千束小余はるといふ若後愛執の罪を悲んて滅罪に  
為自ら此像を作して其送る所の艶書を集り腹内小収むのち  
豊太閤の政所の右筆小野通女此像を崇敬破損せしを補は  
手つて張る彩色を小加えしやと

無情多誤有情人若後初知翻誤身 負柳 中嶋規

觀色華詞合徒説不然超脫在青春

瀋谷茶店

瀋谷坂口の左右小あり世小と茶屋を稱へて家毎小まを團子と  
酒宴を備へて大形腹軟く送迎し此所の名物なり上下の株客はゆき東白

東山名勝圖會卷之三終

東山名勝圖會卷之三終



早稲田大学図書館

011688995916